

第405回NRIメディアフォーラム

日・米・中・独4か国調査にみる AI利用の受容性と 日本におけるAI浸透の未来像

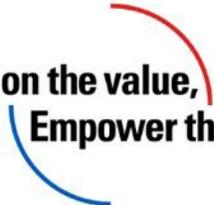
林裕之 藤坂さくら

野村総合研究所
コンサルティング事業本部

2026年3月16日

NRI

Envision the value,
Empower the change



はじめに

NRIでは、めまぐるしく進化するAI等の新技術が社会や経済をどう変えていくのか、その未来像を描く自社プロジェクトを2024年度~2025年度に実施。

製造業



流通業



公共サービス



通信業



ヘルスケア



[203X : AIで拡張する社会 | コラム | 野村総合研究所\(NRI\)](https://www.nri.com/jp/media/column/extending_society_with_ai/index.html)

https://www.nri.com/jp/media/column/extending_society_with_ai/index.html

はじめに

本報告では日・米・中・独の4か国調査により、日本および日本よりAI利用が浸透した各国の状況を比較することで、日本におけるAI浸透時代の未来像を考察する。

現状理解

- ✓ 米・中・独と比較した、日本における生成AI利用の実態を把握
- ✓ 生成AI利用が進んでいる国と日本との共通点や相違点は何か？

AI浸透時代の
未来像

- ✓ 生成AI利用が進んでいる国の特徴と日本との違いから、日本が移行していくであろう未来像を考察する

生活者におけるAI利用の現在地

- 産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性
- 生活者はAIをどう捉えているか
- 日本におけるAI浸透時代の未来像
- Appendix.

AI利用は国ごとに文化や制度、主要企業のAI技術開発の程度によって、その浸透度合いの差が生じてくることから特徴的な3か国を日本の比較対象として選定。

アメリカ

- ✓ OpenAIやGoogleなどの主要企業を抱え、AI技術の研究開発をリード。
- ✓ 商業化・民間利用の先進事例も多い。

中国

- ✓ 国家戦略としてAI開発を推進し、行政・社会インフラにも広範にAIが導入されている。
- ✓ 政府主導の管理体制が敷かれている中でAI利用が浸透。

ドイツ

- ✓ AI利用が盛んな欧州の中でもドイツは経済大国であり、インダストリー4.0（デジタル技術により製造業を高度化）推進でAI活用が進んでいる。
- ✓ EUにおける厳格なAI規制（AI Act）の枠組みの中でAI利用が浸透。

アンケート概要

日本および海外におけるAI利用状況とAI受容性を評価するため、日・米・中・独におけるアンケート調査を実施した。

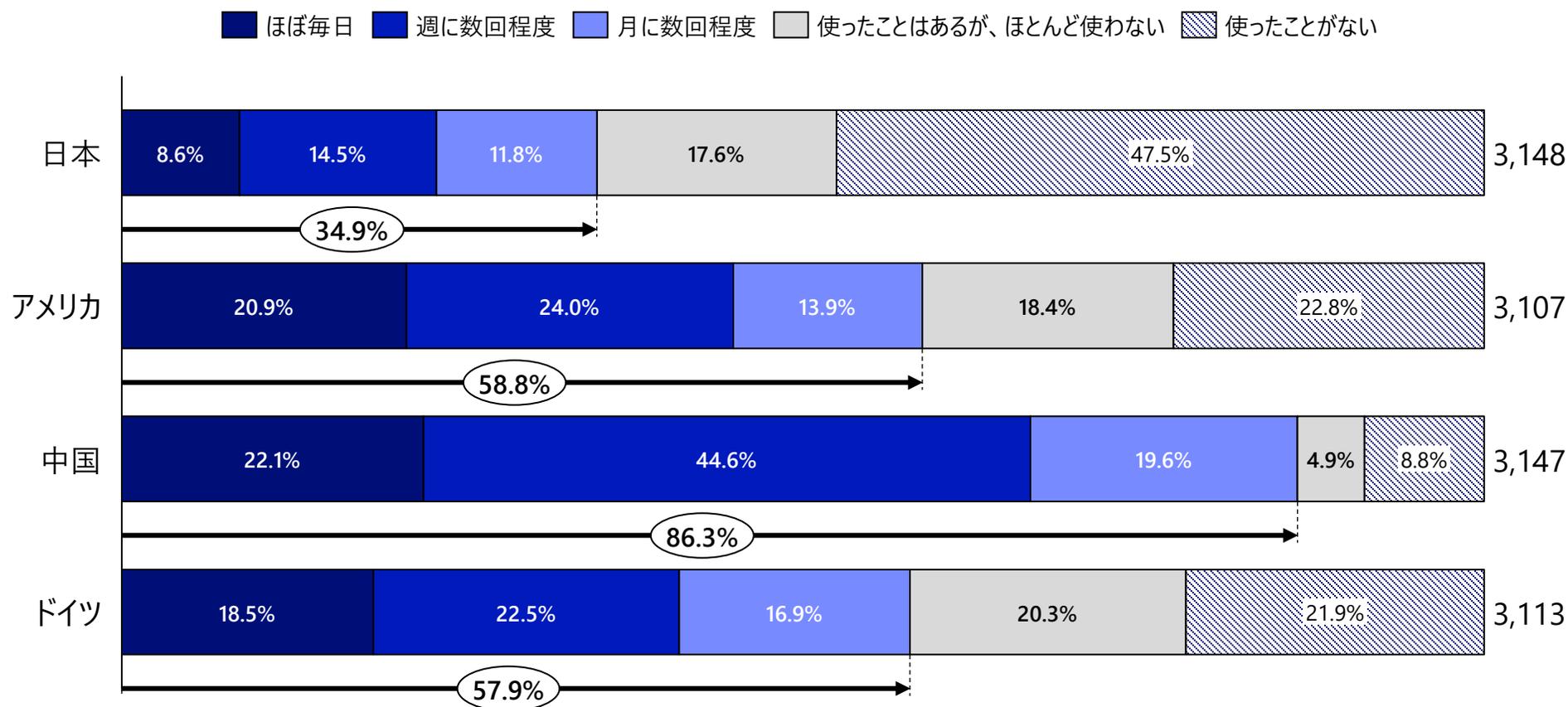
アンケート調査名	AI利用に関する国際比較調査			
調査国	日本	アメリカ	中国	ドイツ
有効回収数	3,148人	3,107人	3,147人	3,113人
調査時期	2025年9月			
調査方法	インターネットリサーチ			
主な調査項目	<ul style="list-style-type: none">回答者属性生活価値観・家族観・消費価値観生活満足度（全体・領域別）個人における生成AIの利用状況個人における生成AIの利用用途個人における生成AIの受容性企業におけるAIの活用状況企業におけるAI導入の効果・課題企業における中国系AIの採用状況	<ul style="list-style-type: none">回答者属性生活価値観・家族観・消費価値観生活満足度（全体・領域別）個人における生成AIの利用状況個人における生成AIの利用用途個人における生成AIの受容性		

生成AIの利用頻度

生成AIを「月に数回以上」使う割合は、 中国が約86%、アメリカ・ドイツが60%弱、日本が約35%であった。

回答者：全員

生成AIの利用状況についておうかがいします。あなたは生成AI（例: ChatGPT, Gemini, Copilot, DeepSeekなど）を使ったことがありますか。



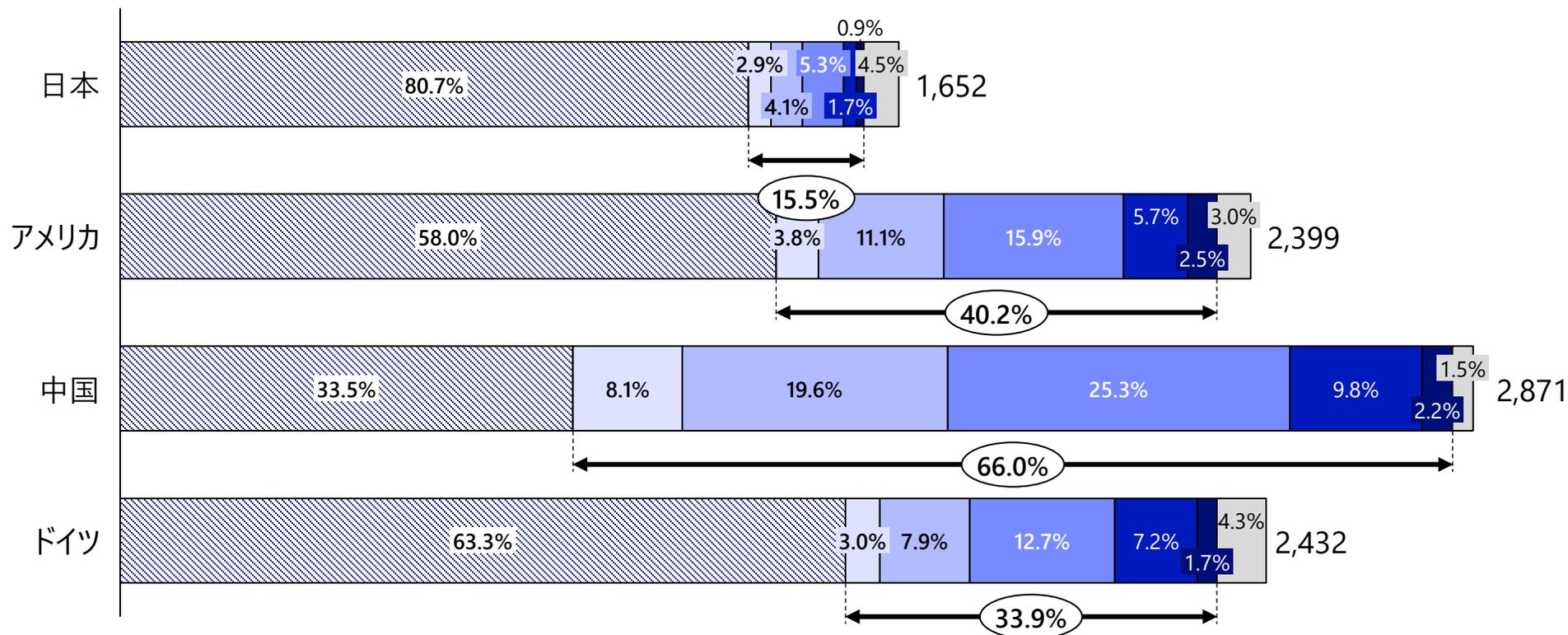
生成AIにかけるお金

自身でお金を支払って生成AIサービスを利用している割合は、 中国が66%、アメリカが40%、ドイツが約34%、日本が約15%であった。

回答者：生成AI利用者

生成AIに毎月どのくらいのお金をかけていますか。

0円（無料版のみを使用） 1円～1,000円未満 1,000円～2,000円未満 2,000円～5,000円未満 5,000円～1万円未満 1万円以上 わからない（例：会社が使用料を支払っている）

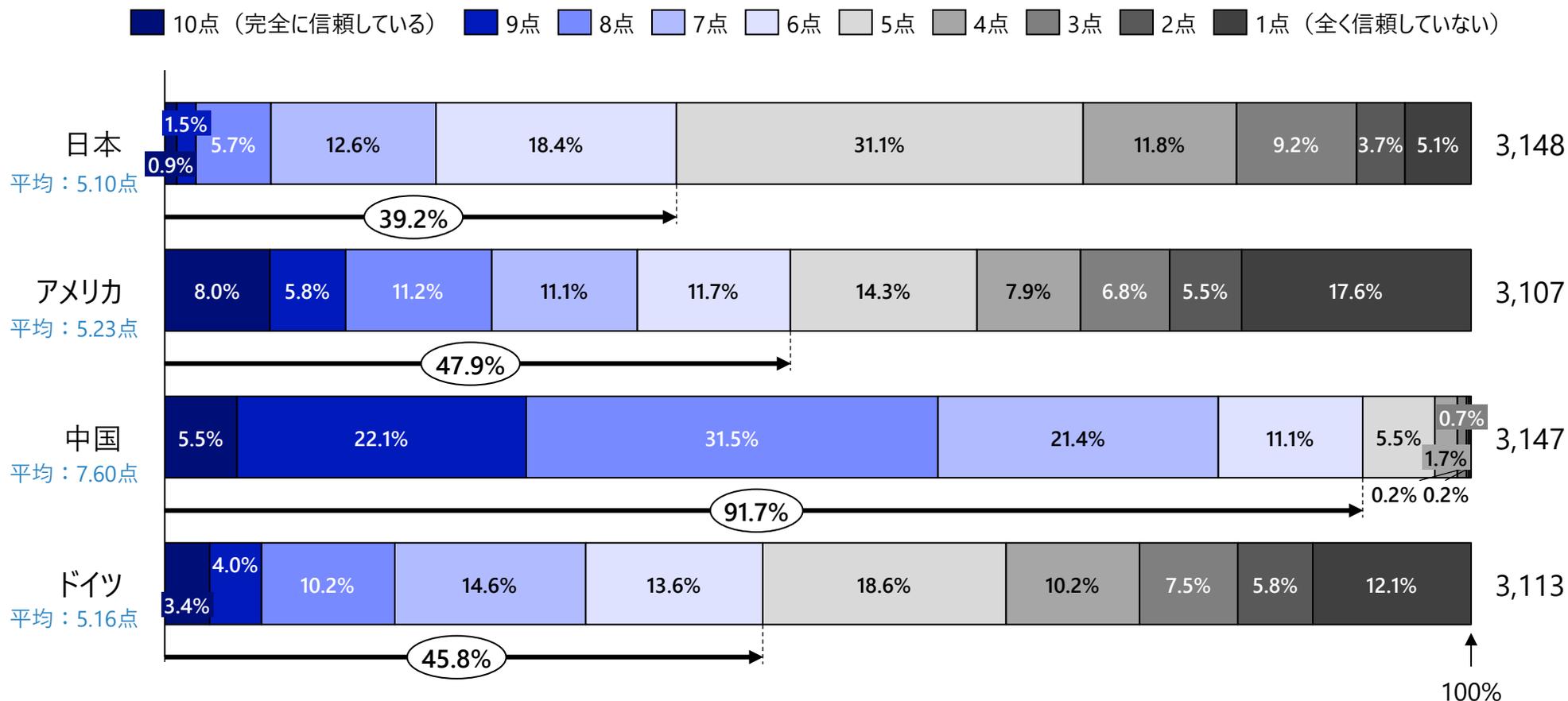


AIに対する信頼度

中国ではどちらかといえばAIを信頼していると答えた人が9割以上であった。
米独が5割弱、日本が約4割であった。

回答者：全員

あなたはAIの判断・提案にどの程度信頼を置いていますか。「全く信頼していない」を1点、「完全に信頼している」を10点として、あてはまるものを1つ選んでお知らせください。



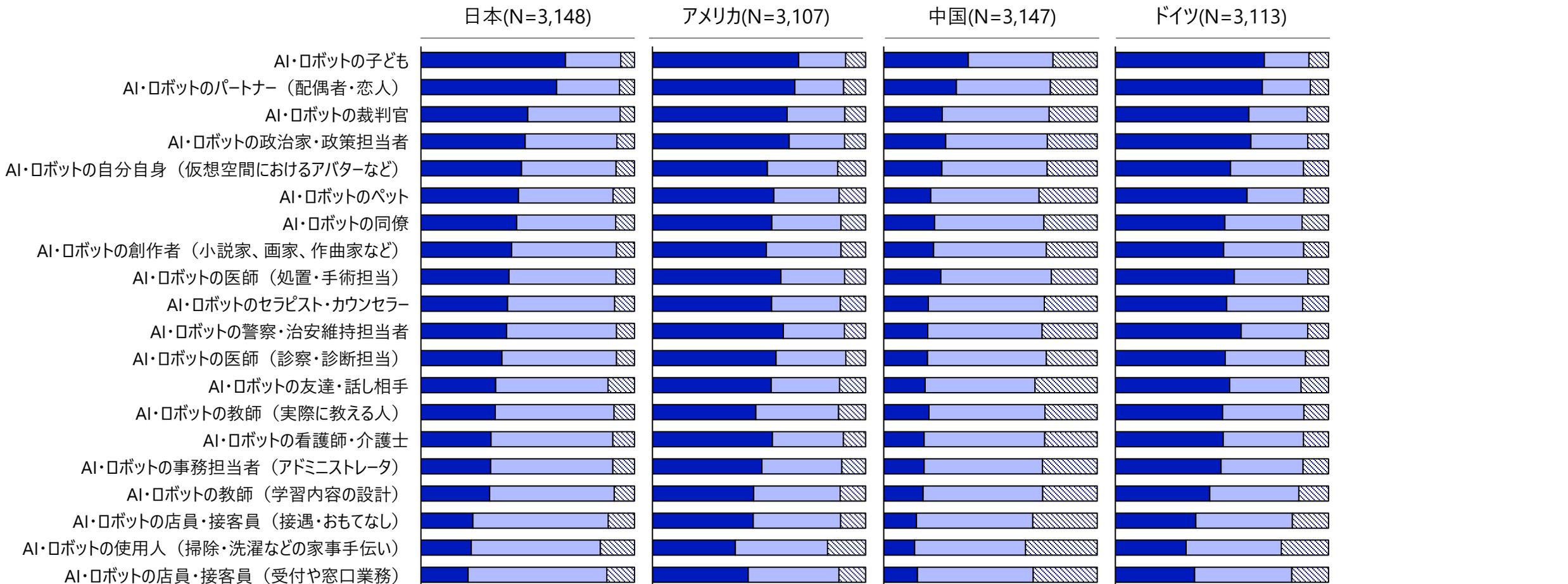
AI・ロボット許容度

4か国共通して「子ども」や「配偶者・恋人」がAIに置き換わることについては否定的回答が高い。中国は「無条件で利用したい」の割合が比較的高い。

回答者：全員

以下の人やモノがAI・ロボットに置き換わった場合、あなたはどれぐらい利用したいと思いますか。直感的にお答えください。

■ 何があっても利用したくない □ より高機能になる・安全性が高まるなど進化するならば利用してもよい ▨ 無条件で利用したい



目次

■生活者におけるAI利用の現在地

産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性

■生活者はAIをどう捉えているか

■日本におけるAI浸透時代の未来像

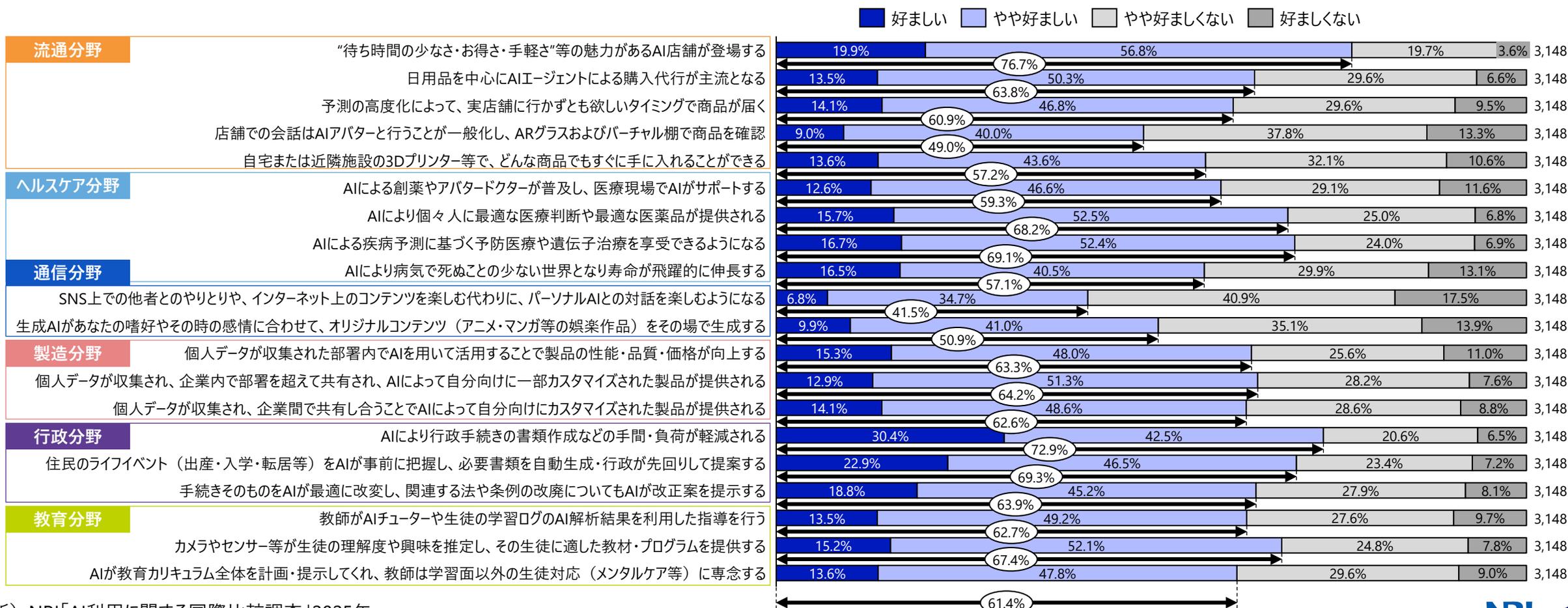
■Appendix.

産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | 日本

日本では利便性が高まることへのAI受容性は高いが、パーソナルAIとの対話やバーチャルでの買い物に対しては好ましいと思わない人が多い。

回答者：全員

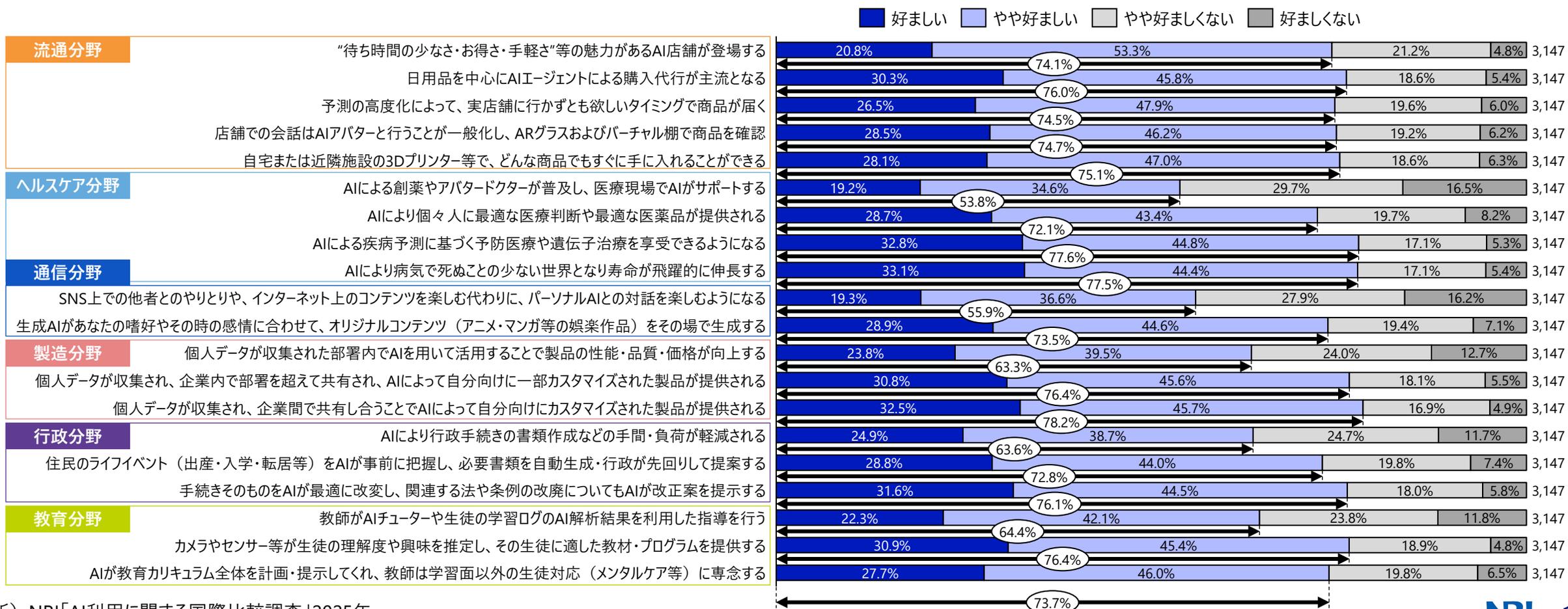
あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。



中国では全体的に産業のAI化を好ましく感じている人が多い。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

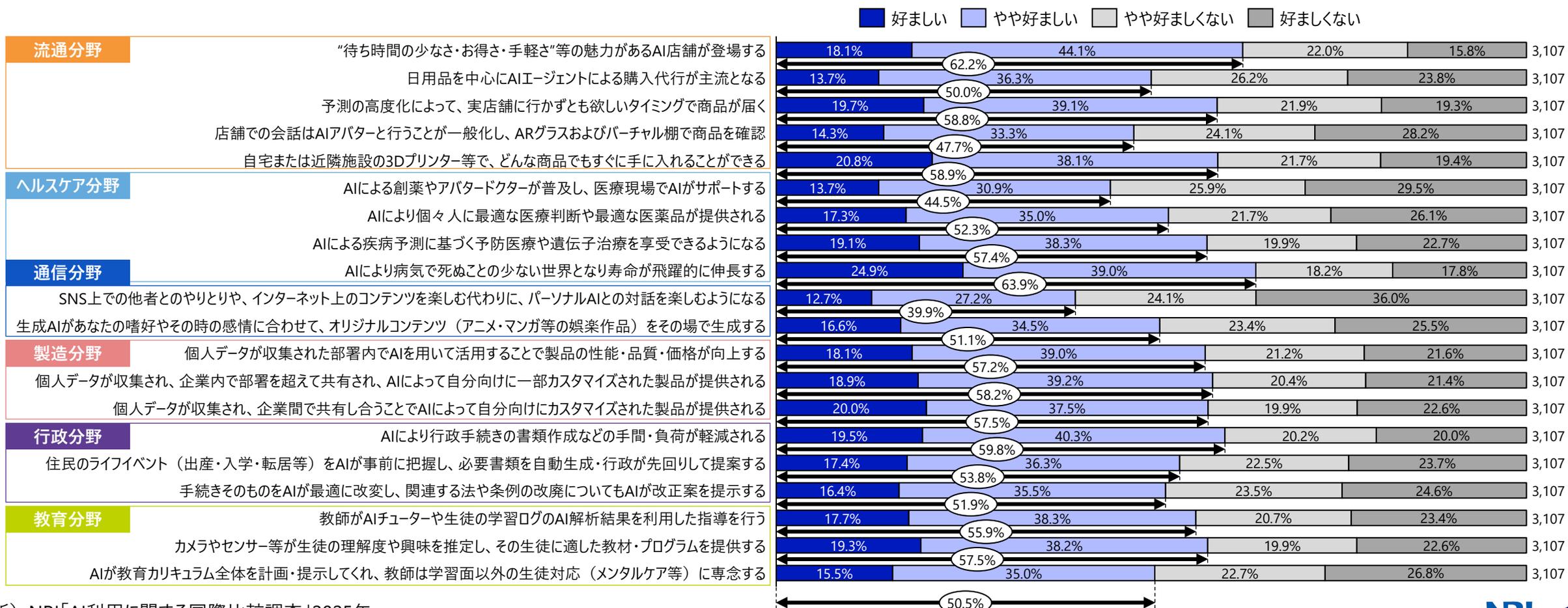


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | アメリカ

アメリカでは全項目において「好ましくない」と回答する人も多く、産業のAI化には賛否が分かれている。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

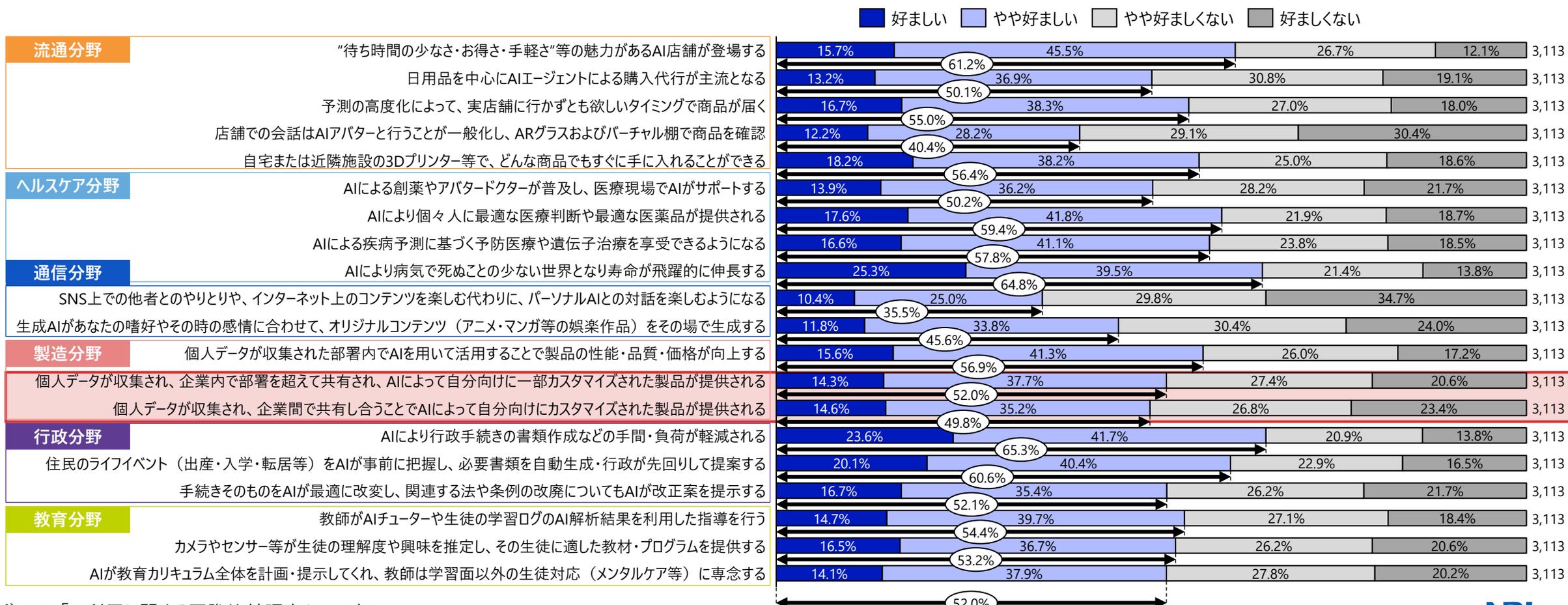


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | ドイツ

ドイツにおいてもアメリカと同様に産業のAI化に反対する人が割と多く、特に個人データ収集・共有に関する仕組みについては抵抗感が他国よりも強い。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

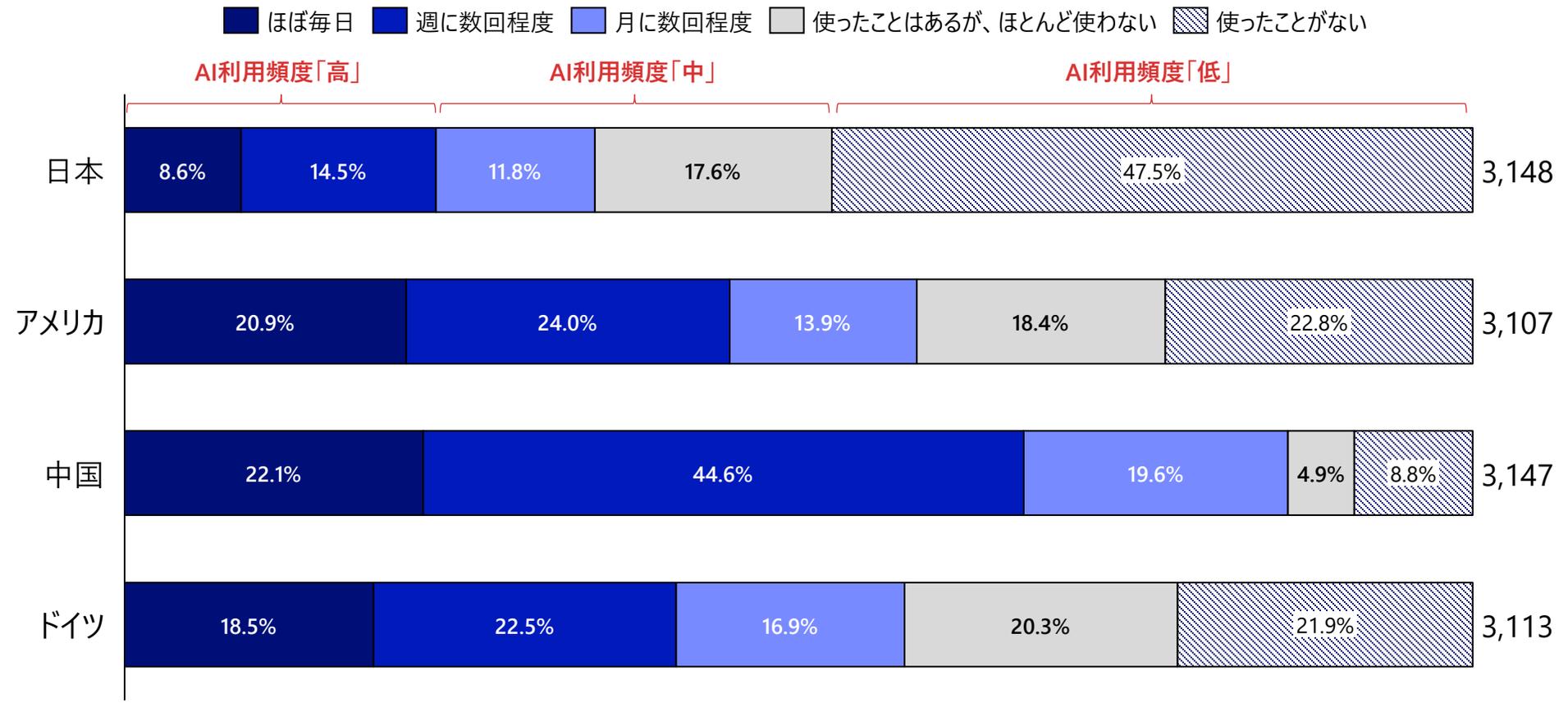


生成AIの利用頻度別の産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | 生成AIの利用頻度の定義

生成AI利用について、週に数回以上を「高」、月に数回~使ったことあるを「中」、使ったことがないを「低」として生成AI利用頻度を3区分に定義。

回答者：全員

生成AIの利用状況についておうかがいします。あなたは生成AI（例: ChatGPT, Gemini, Copilot, DeepSeekなど）を使ったことがありますか。

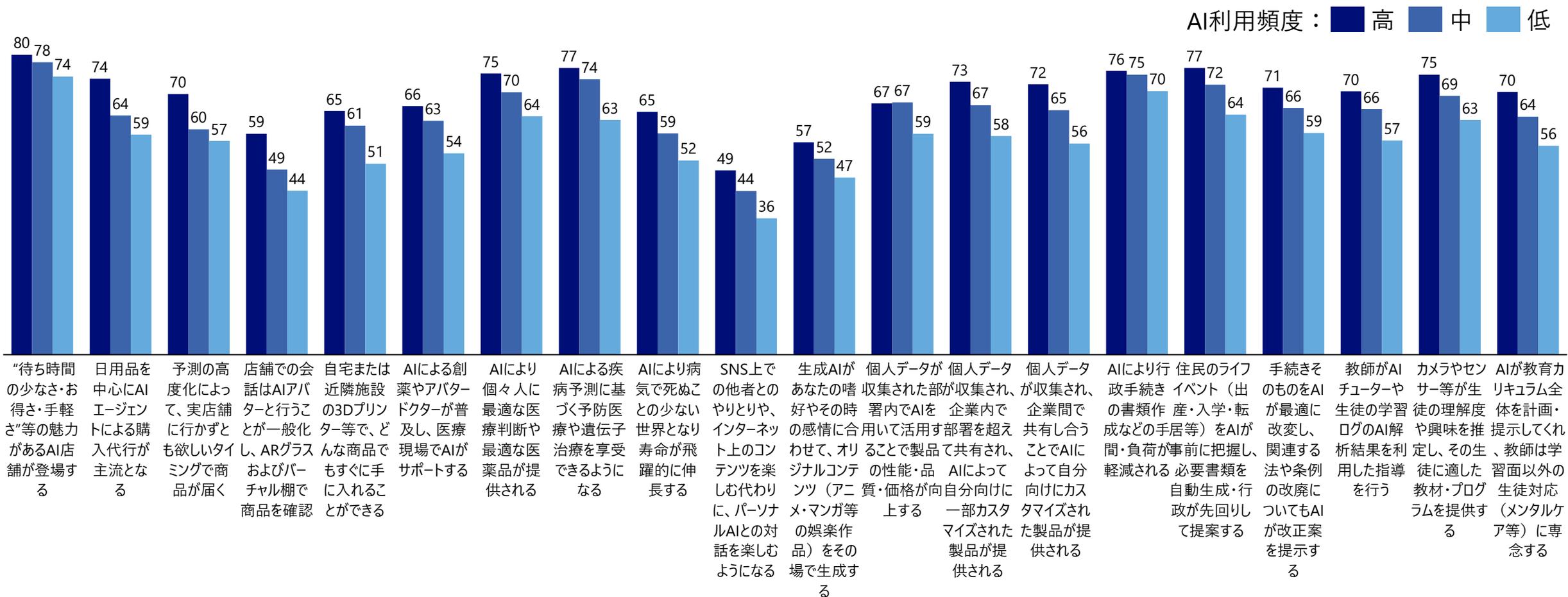


生成AIの利用頻度別の産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | 日本

AI利用頻度が高い人ほど各産業におけるAI化への受容性が高くなる。特に「低」（＝AIを使ったことがない人）から「中」への意識の差が大きい。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。（好ましいと思う計）



日本では生成AI利用が他国より遅れており、AI信頼度も低い。しかし、生活の利便性向上に資するAI利用から始めることで生活者の受容性は高められる。

【1章.生活者におけるAI利用の現在地】

- 生成AIの利用（月1回以上）は中国では86%、アメリカ・ドイツでは6割弱だが、日本では35%程度である。
- 有料版利用は日本では15%ほどであるが、中国では66%存在し、有料版サービスが浸透している。
- AIに対する信頼度も日本は4か国の中で最も低いが、中国では圧倒的に高い。

【2章.産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性】

- 日本では生活の利便性が高まることへのAI受容性は高いが、パーソナルAIとの対話やバーチャルでの買い物に対しては好ましいと思う人が少ない。
- 中国では全体的に産業のAI化を好ましく感じている人が多い。
- アメリカ・ドイツでは産業のAI化に「好ましくない」と回答する人が多く、賛否が分かれている。
- 日常的に生成AIを利用している人ほど、産業のAI化を好ましいと思う割合は高くなる。

目次

■生活者におけるAI利用の現在地

■産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性

生活者はAIをどう捉えているか

■日本におけるAI浸透時代の未来像

■Appendix.

本調査におけるクラスタリング分析の背景

日・米・中・独、4か国におけるAI利用状況と受容性の国別評価を超え、日本においてAI利用が浸透した際の生活者像を考察すべく、クラスタリング分析を実施した。

本調査におけるクラスタリング分析の背景

現状の認識

日本におけるAI活用の現在地

- 第1章・第2章の調査結果より、日本は米・中・独と比較して、現時点でのAI活用が遅れていることが明らかになった。

将来への問い

AI浸透は不可避な流れ

- 労働人口の減少や働き方改革などの社会課題を背景に、日本においてもAIの社会実装・浸透が進むことは自然な流れである。AIが日常に浸透した際、日本の生活者の意識や行動は、現在と比べてどのように変容するのかという問いが生まれた。

本分析の意義

ビジネス社会への示唆

- AI浸透後の生活者像（価値観・行動様式）を先読みすることで、企業は今後の生活者ニーズの核心を捉え、先回りしたビジネス機会の創出やサービス設計に役立てることができる。

アプローチ

生活者の類型化（クラスタリング）と未来予測

- 先行してAIを利用している層（AI信頼×利用層）の特徴や価値観を分析することで、今後日本が移行していくであろう未来像を考察する。

クラスタリング分析に用いた設問

本検討では、AIに対する信頼・許容等の意識設問を用いたクラスタリング結果に、生成AIの利用頻度を掛け合わせることで、生活者のAIの捉え方を4つのタイプに分類した。

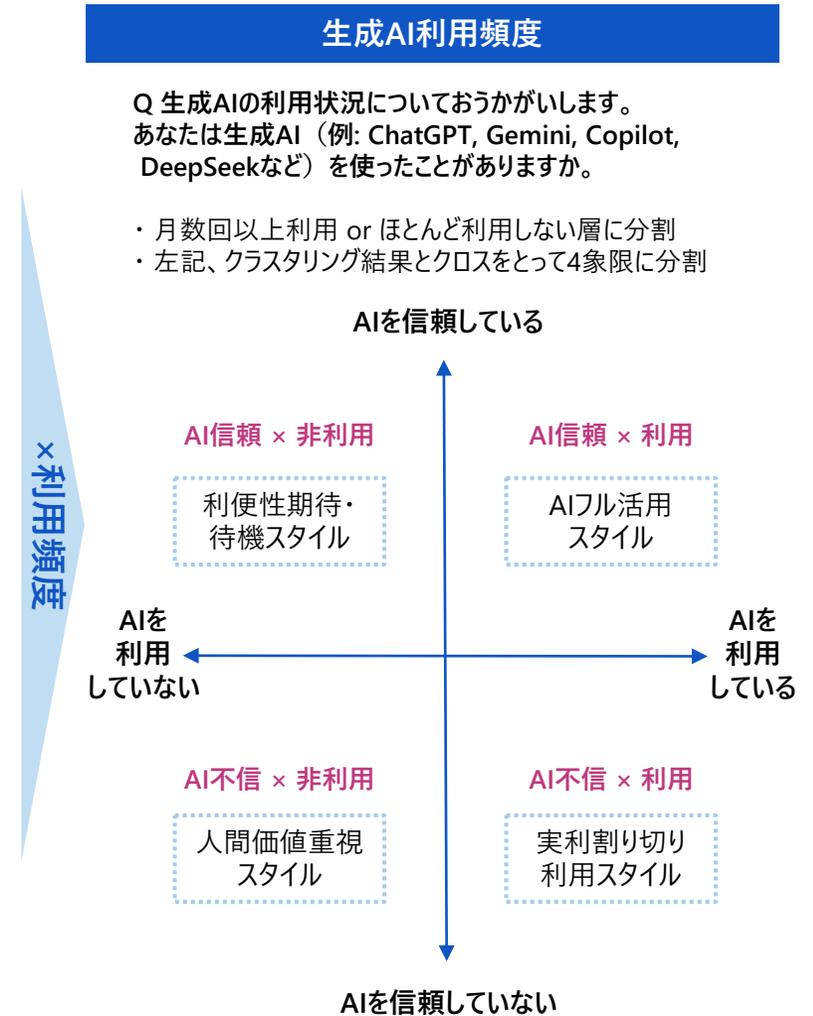
AI信頼点数	AI機能拡張の許容度	AIに対する考え方	AI vs 人間
<p>Q あなたはAIの判断・提案にどの程度信頼を置いていますか。「全く信頼していない」を1点、「完全に信頼している」を10点として、あてはまるものを1つ選んでお知らせください。</p> <p>※連続変数としてそのまま使用</p>	<p>Q AIは膨大なデータの学習をもとに、人間よりも高度な予測・判断をすることができます。あなたにとって、以下のことをAI・ロボットがすることは、どれくらい許容できますか。直感的にお答えください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物において、最適な選択肢を提案 ・ 病気のリスク等の予測 ・ 社会を監視し、違反などを見つける etc... <p>※主成分分析で成分を抽出</p>	<p>Q 以下のAI・ロボットに関するAとBの考え方のうち、どちらがあなたのお考えに近いですか。あてはまるものをそれぞれひとつずつお知らせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【A】致命的でない限りAIのミスは許容できる 【B】些細なミスも許容できない ・ 【A】AIがあれば人間のコミュニティは不要 【B】AI時代こそ感情のつながりが大事 etc... <p>※因子分析で3因子を抽出</p>	<p>Q あなたは以下のAとBのうち、どちらを選びたいですか。あてはまるものをそれぞれひとつずつお知らせください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【A】多様な症例をインプットしたAI名医 【B】顔を見て、触れて診察した人間の医者 ・ 【A】AIがマッチングした相性抜群のパートナー 【B】相性診断結果はよくないが自分が選んだパートナー etc... <p>※主成分分析で成分を抽出</p>

クラスタリング (意識)

Two Step クラスタリングの結果

	AI信頼点数	AI許容度	創造性の拡張 ・ 機能の代替性	情緒の代替性	個の力の伸長	AI vs 人間
	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値
1	7.000	0.316	0.413	0.360	0.125	0.41265
2	3.000	0.853	0.115	0.971	0.336	-1.11299

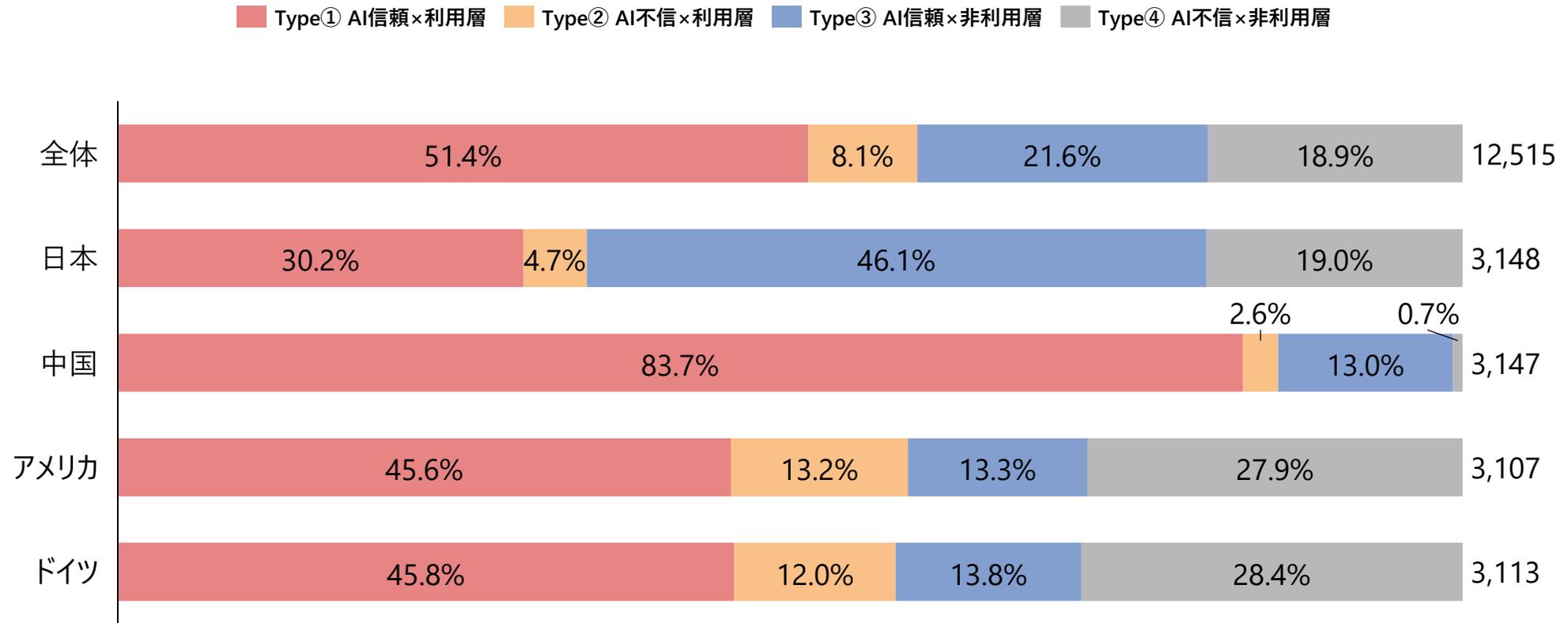
→ AIを信頼・許容・選好している
→ AIを信頼・許容・選好していない



各国のクラスタ構成比

中国は8割以上、米独は5割弱が「AI信頼×利用層」である一方で、日本は「AI信頼×非利用層」が約半数を占める。AI不信層は日中に比べて米独で高い傾向がみられた。

各国のクラスタ構成比

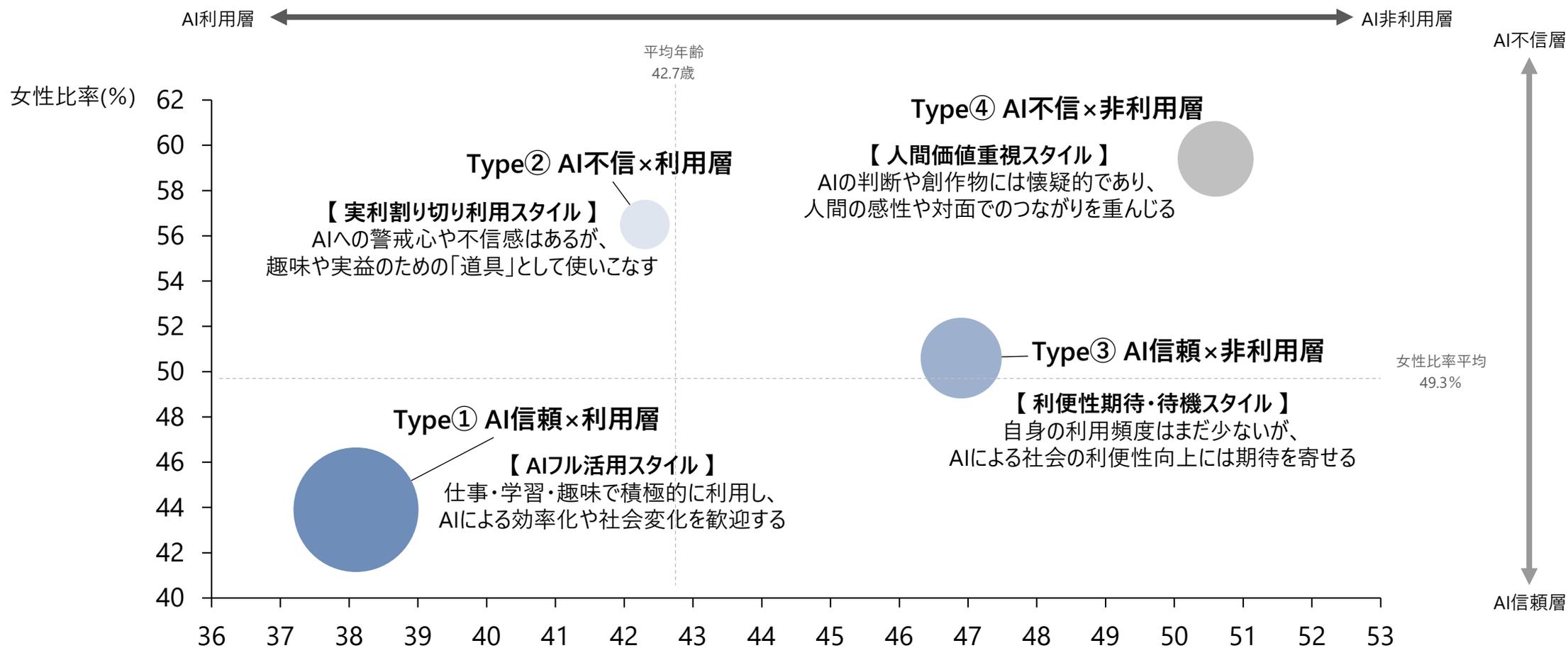


性年代ポジショニングマップ

AIフル活用スタイル (Type ①) は比較的若年層に多く、人間価値重視スタイル (Type ④) は女性比率が高い傾向。性別・年代によって、AIに対する期待と警戒のバランスが異なる様子が見て取れる。

各クラスターの性年代ポジショニングマップ

※バブルサイズは人数、バブルカラーの凡例はAI信頼点数



セグメントプロフィール | Type① : AI信頼×利用層「AIフル活用スタイル」

全クラスタの中で最も若く、中国の約84%がこのクラスタに属する。仕事・学習・趣味共に生成AIの利用時間が長く、レコメンドシステムの利用にも積極的。

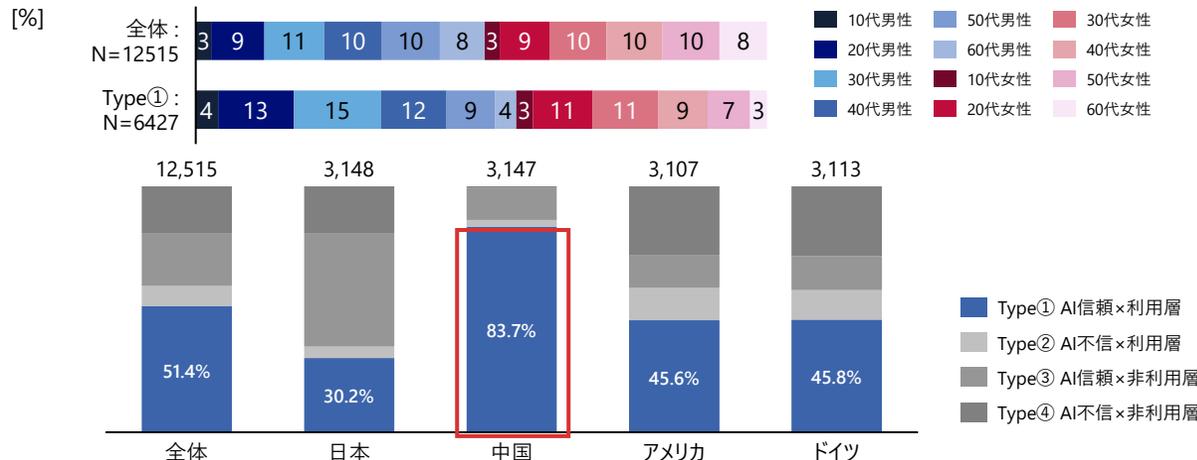
基本情報

▼セグメント基礎集計

	全体平均	全体平均
平均年齢	38.1 歳	42.7
女性比率	43.9 %	49.3
AI信頼点数	7.07 点/10	5.77
生成AIにかかる金額	2,123 円/月	1599

- やや男性が多いクラスタで、全クラスタの中で最も若く、中国の割合が高い。
- AI信頼得点は10点満点で7点を超え、1か月あたりに生成AIにかかる金額も2000円越えである。
- 特に仕事における生成AIの利用時間が長く、生成AIによって約2時間仕事の時間が短縮されている。
- AIによるレコメンドシステムの利用にも積極的であり、利用によって検索の質が増加し、時間が減少すると考えている人たち。

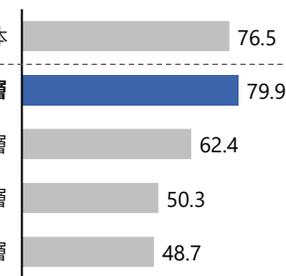
属性項目 (性年代・各国の出現率)



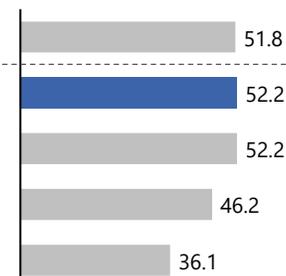
生成AIの用途別利用時間 (生成AIを利用した時間)

※就業者に限る

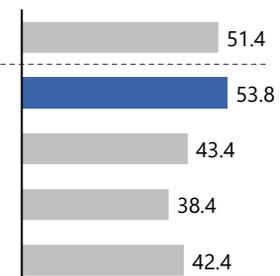
[仕事において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



[学習において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

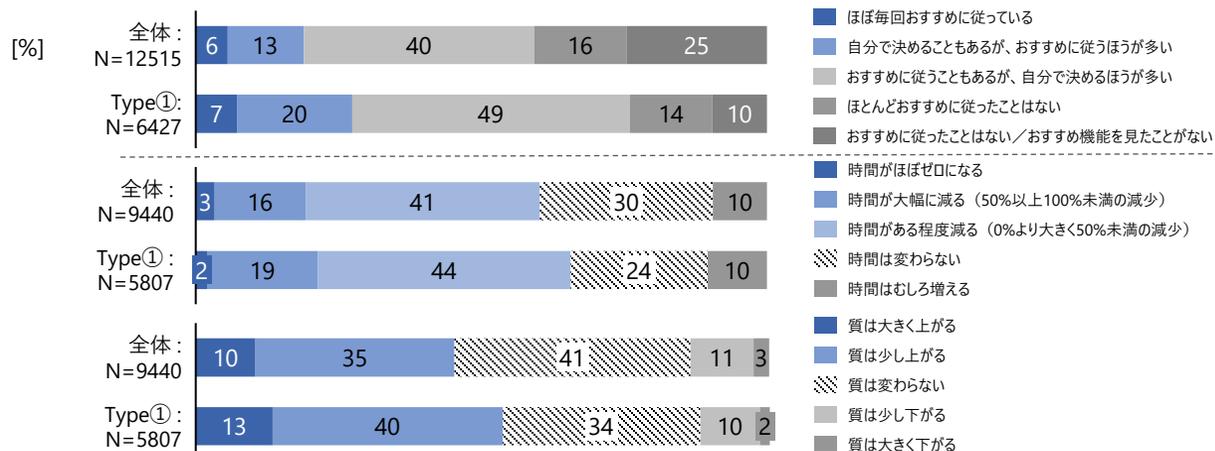


[趣味・娯楽において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



【参考】生成AI利用によって短縮されたと感じる仕事時間：118.8分/日

AIレコメンドシステム利用 (利用状況・質の変化・時間の変化)

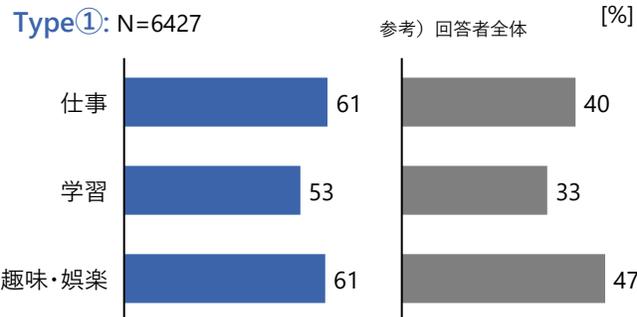


セグメントプロフィール | Type① : AI信頼×利用層「AIフル活用スタイル」

特に仕事と学習における生成AIの利用率が高く、全体的に生成AIへの許容度が高い。一方で、主治医の機能と情緒機能に関しては人間優位。

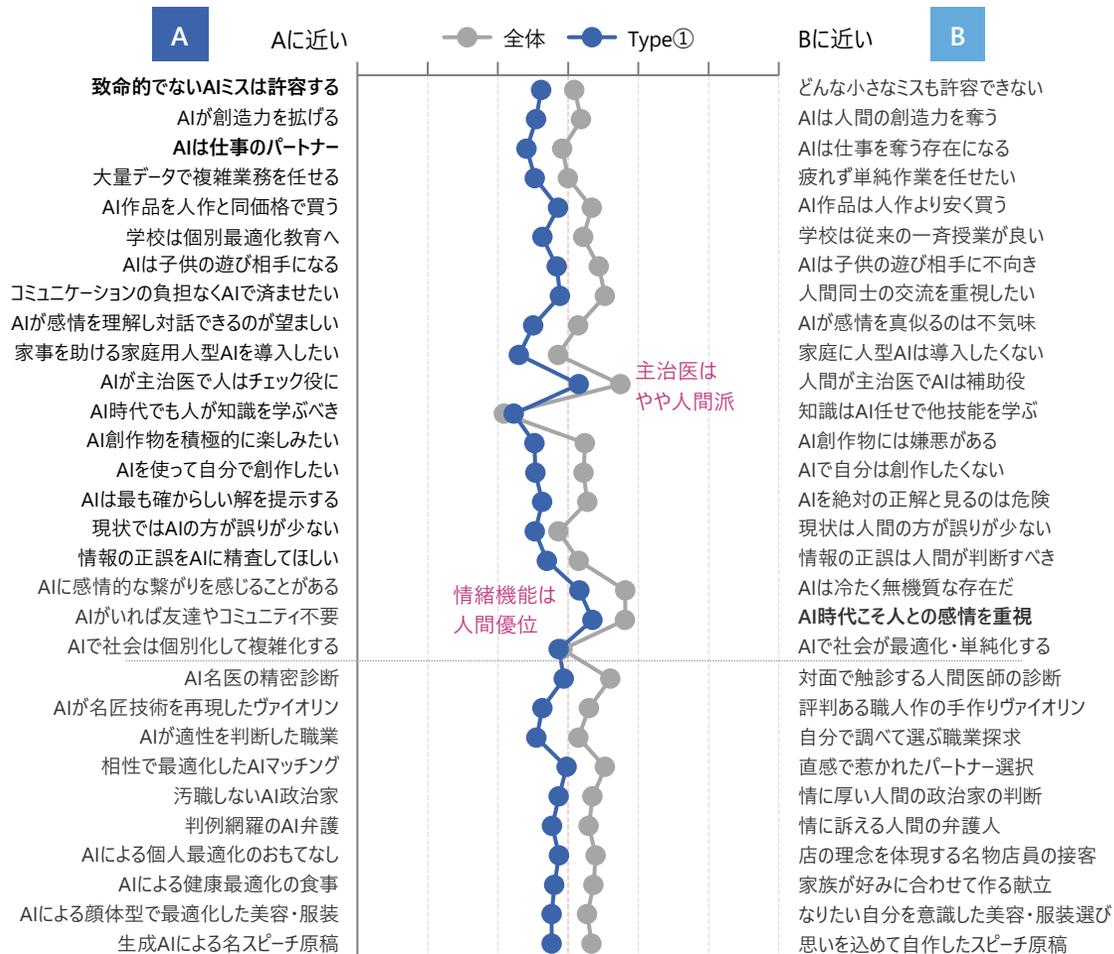
生成AI利用割合

- 仕事・学習・趣味のいずれの項目においても半数以上が生成AIを利用しており、生成AIによる機能の代替や、生成AIの進歩による行動や行為の代替について全項目が全体平均より高い。
- 一方で、主治医の機能と情緒機能に関しては全体よりAI寄りではあるものの、どちらかといえば人間優位。



AIに対する考え方 / AI vs 人間

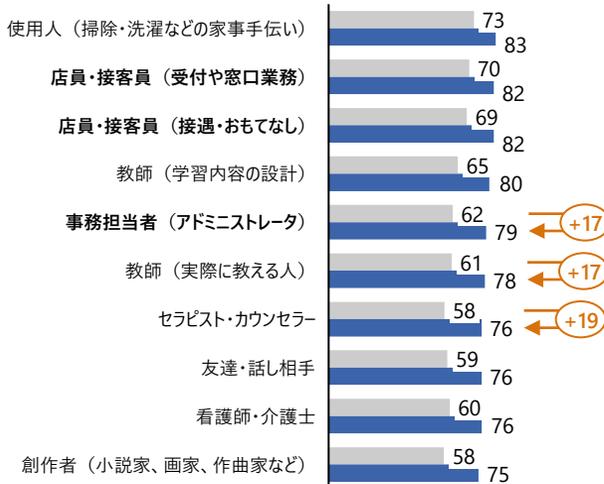
全体 : N=12515 Type① : N=6647



AIによる代替の許容度 / AIの行動・行為の許容度 TOP10 [%]

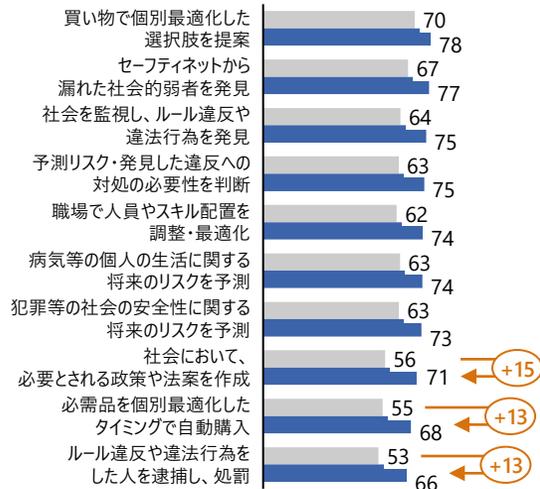
[生成AIによる代替 許容度TOP10]

※「無条件で利用したい+より高機能になる・安全性が高まるなど進化するならば利用してもよい」の合計



[生成AIの行動・行為 許容度TOP10]

※「許容できる」TOP2の合計



セグメントプロフィール | Type② : AI不信×利用層「実利割り切り利用スタイル」

若年女性比率が高く、米独人の出現率が高い。仕事・学習・趣味において生成AIを使っている時間は比較的長いですが、AIレコメンドシステムの利用割合は低い。

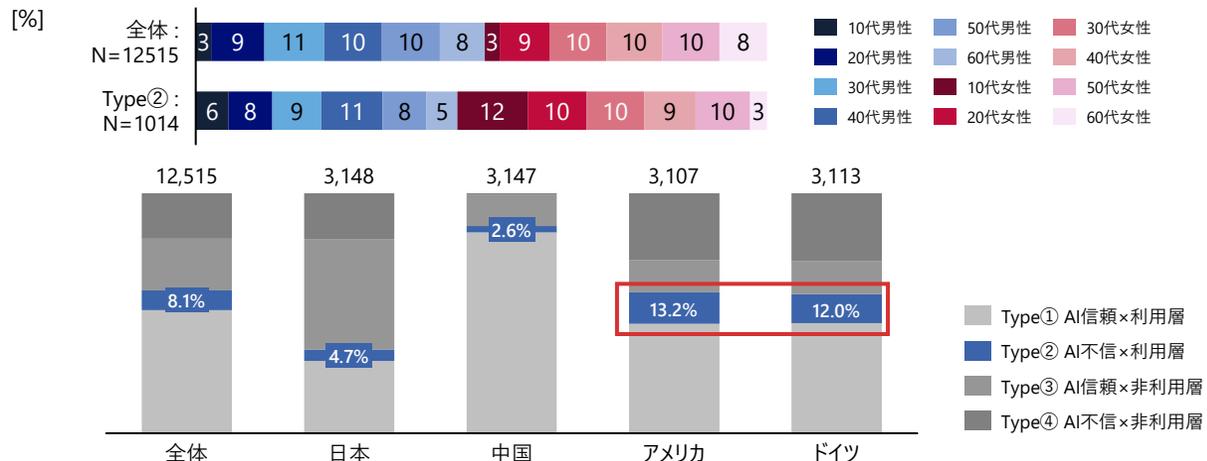
基本情報

▼セグメント基礎集計

項目	Type②	全体平均
平均年齢	42.3 歳	42.7
女性比率	56.5 %	49.3
AI信頼点数	4.73 点/10	5.77
生成AIにける金額	526 円/月	1599

- 若年女性が多く、米独併せて8割弱を占める。
- 学習で生成AIを使っている時間は全クラスで最も長い。
- レコメンドシステムの利用割合は低いですが、検索時間や質の変化に悪いイメージは持っていない。

属性項目 (性年代・各国の出現率)



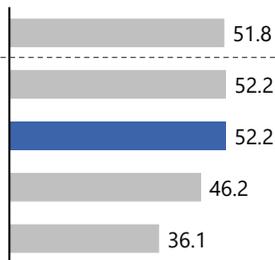
生成AIの用途別利用時間 (生成AIを利用した時間)

※就業者に限る

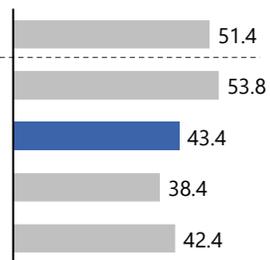
[仕事において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



[学習において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

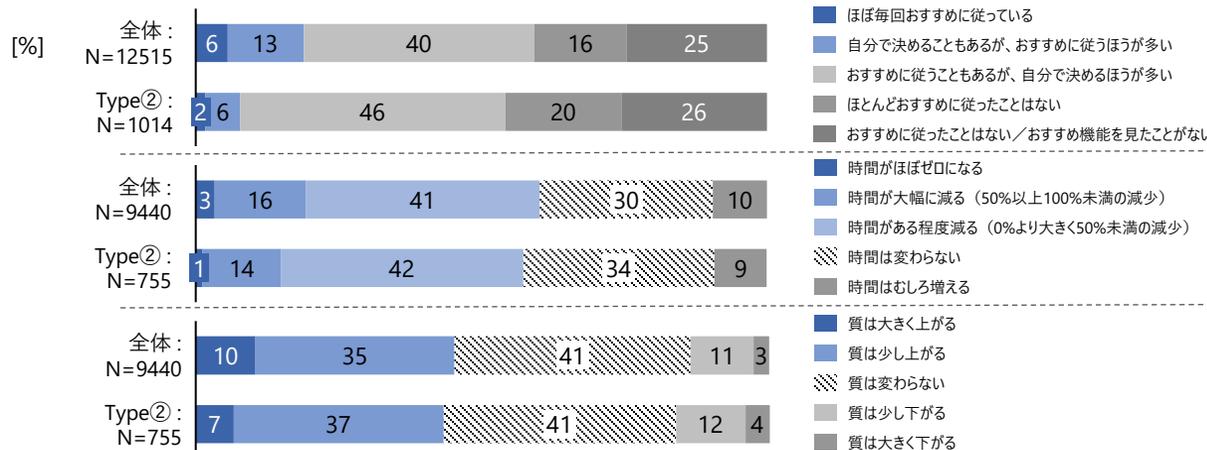


[趣味・娯楽において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



【参考】生成AI利用によって短縮されたと感じる仕事時間：82.2分/日

AIレコメンドシステム利用 (利用状況・質の変化・時間の変化)

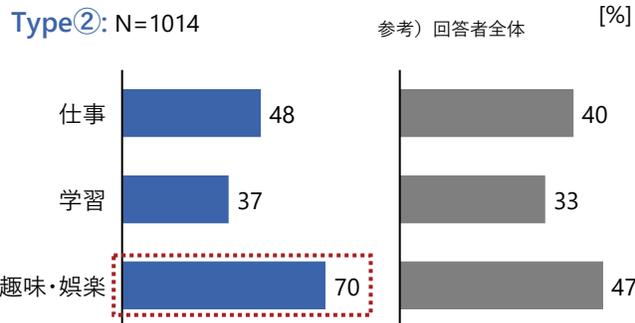


セグメントプロフィール | Type② : AI不信×利用層「実利割り切り利用スタイル」

生成AIを趣味や娯楽に利用している割合が高く、基本的にどの項目でも人間優位だが、特に医師の機能や情緒機能は人間派である。

生成AI利用割合

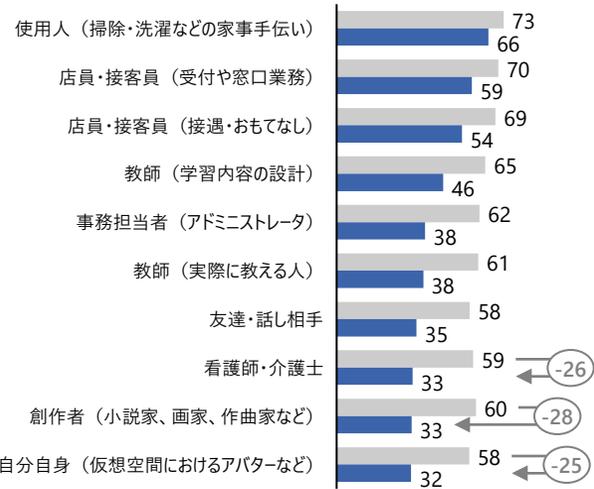
- 仕事や学習における生成AIの利用割合は高くないが、趣味や娯楽における利用割合が高い。
- 機能の代替や行動や行為の生成AIの代替への許容度は全体的に低く、基本的に人間優位の考え方。特に医師の機能や情緒機能はAIではなく大きく人間に寄っている。



AIによる代替の許容度 / AIの行動・行為の許容度 TOP10 [%]

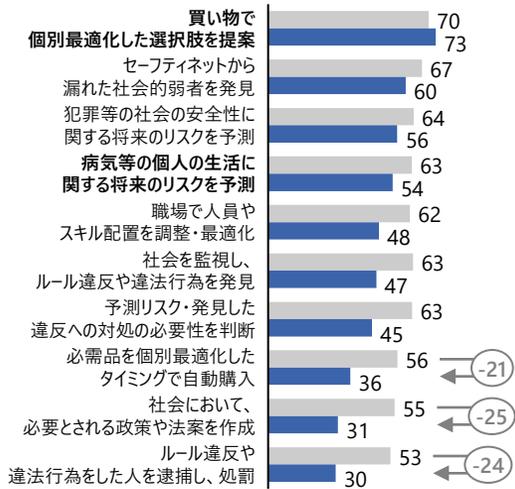
[生成AIによる代替 許容度TOP10]

※「無条件で利用したい+より高機能になる・安全性が高まるなど進化するならば利用してもよい」の合計



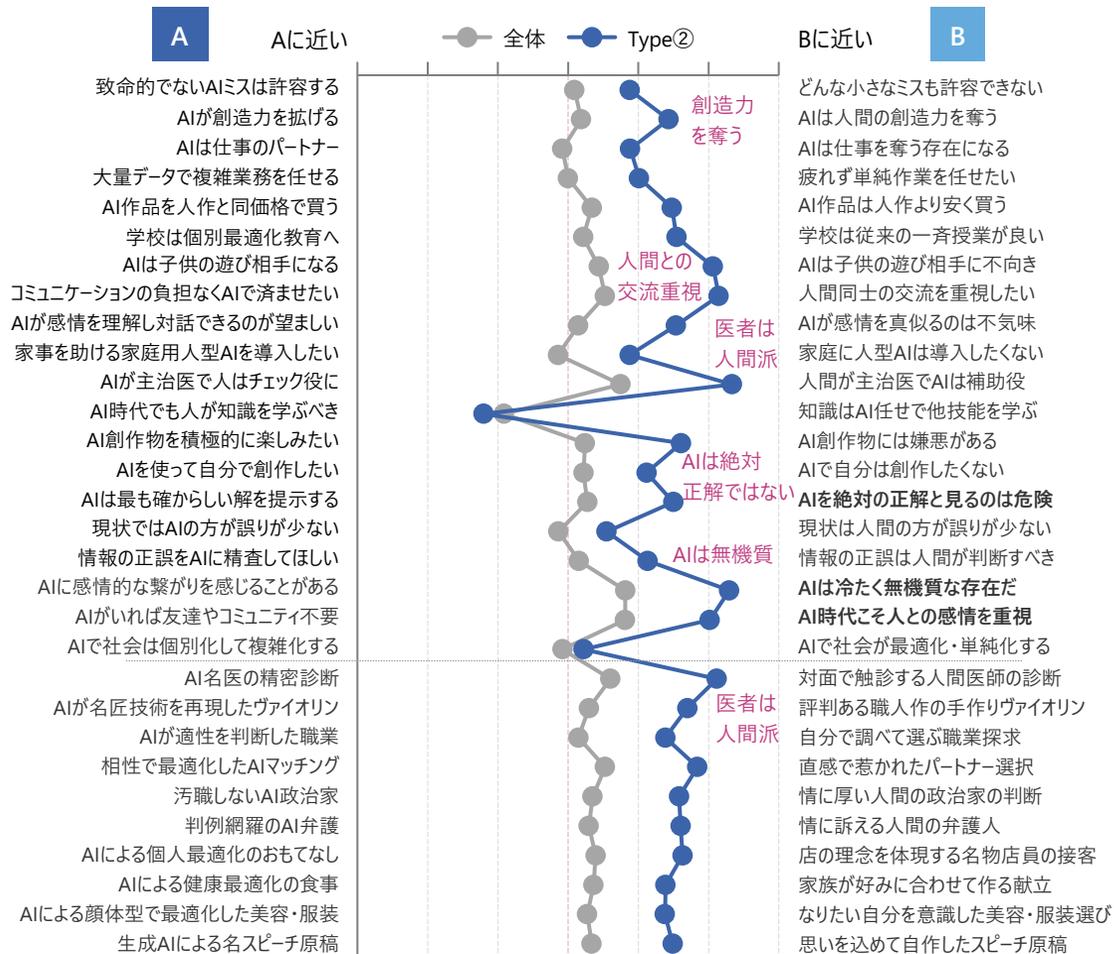
[生成AIの行動・行為 許容度TOP10]

※「許容できる」TOP2の合計



AIに対する考え方 / AI vs 人間

全体: N=12515 Type②: N=1014



セグメントプロフィール | Type③ : AI信頼×非利用層「利便性期待・待機スタイル」

50-60代の男女が多く、日本の出現率が高い。生成AIの利用やレコメンドシステムの利用割合は低いですが、検索時間や質の変化に対して悪い印象は持っていない。

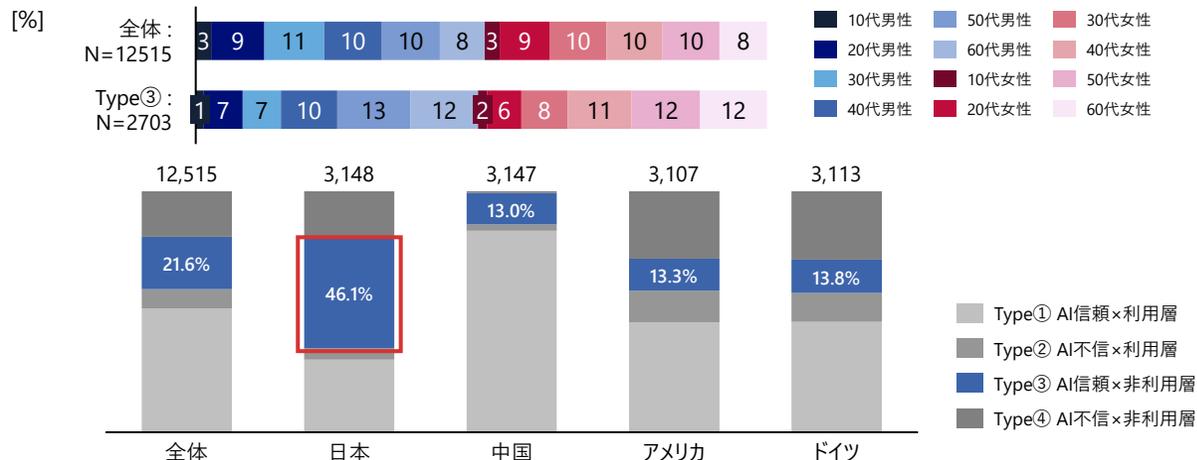
基本情報

▼セグメント基礎集計

	全体平均	全体平均
平均年齢	46.9 歳	42.7
女性比率	50.6 %	49.3
AI信頼点数	5.65 点/10	5.77
生成AIにかかる金額	654 円/月	1599

- 50-60代の男女が多く、半数以上を日本が占める。
- 生成AI利用時間は短く、AIレコメンドシステムの利用割合も全体と比べてやや低い。
- 検索時間や質の変化についてはレコメンドシステムを利用してもしなくても「変化しない」と回答した割合が高い。

属性項目 (性年代・各国の出現率)



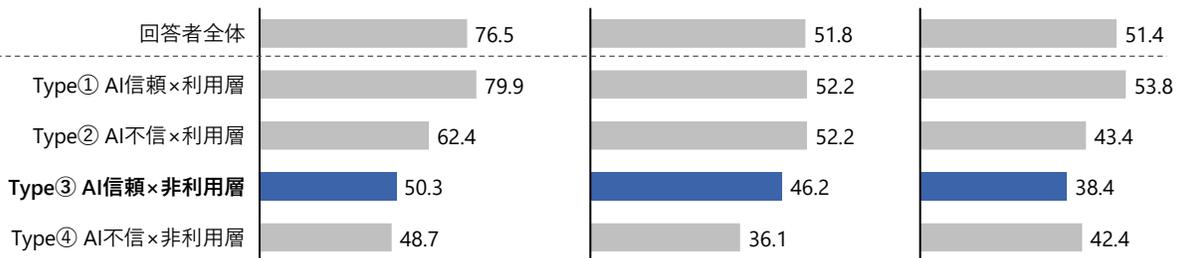
生成AIの用途別利用時間 (生成AIを利用した時間)

※就業者に限る

[仕事において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

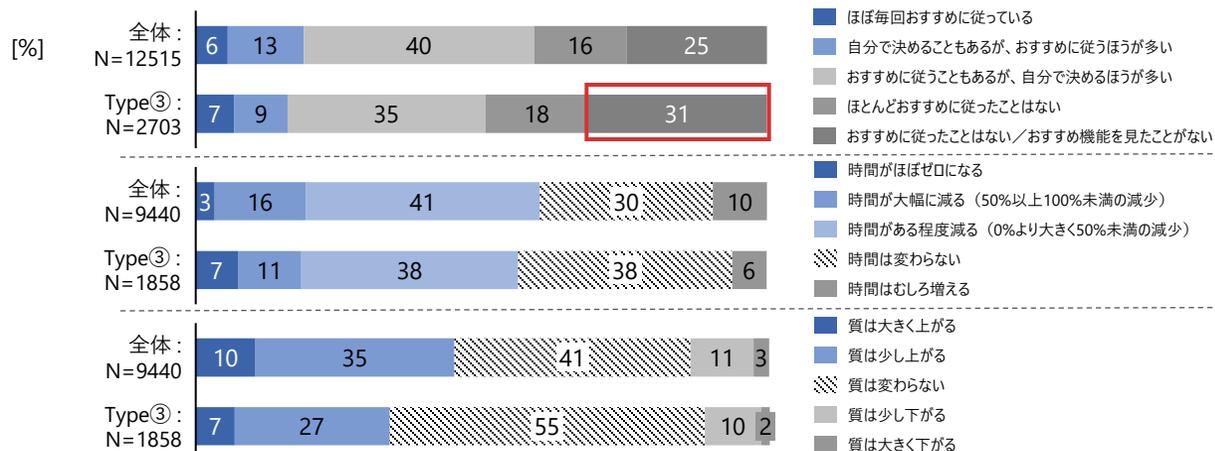
[学習において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

[趣味・娯楽において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



【参考】生成AI利用によって短縮されたと感じる仕事時間：64.4分/日

AIレコメンドシステム利用 (利用状況・質の変化・時間の変化)

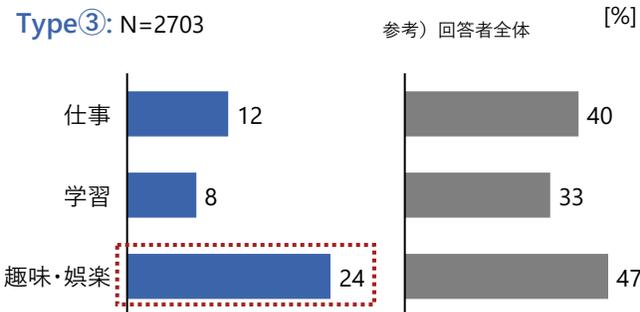


セグメントプロフィール | Type③ : AI信頼×非利用層「利便性期待・待機スタイル」

趣味や娯楽では生成AIを利用しており、全体的に生成AIへの許容度や期待がやや高いが、AI作品への評価と人も知識を学ぶべきという考え方は平均的。

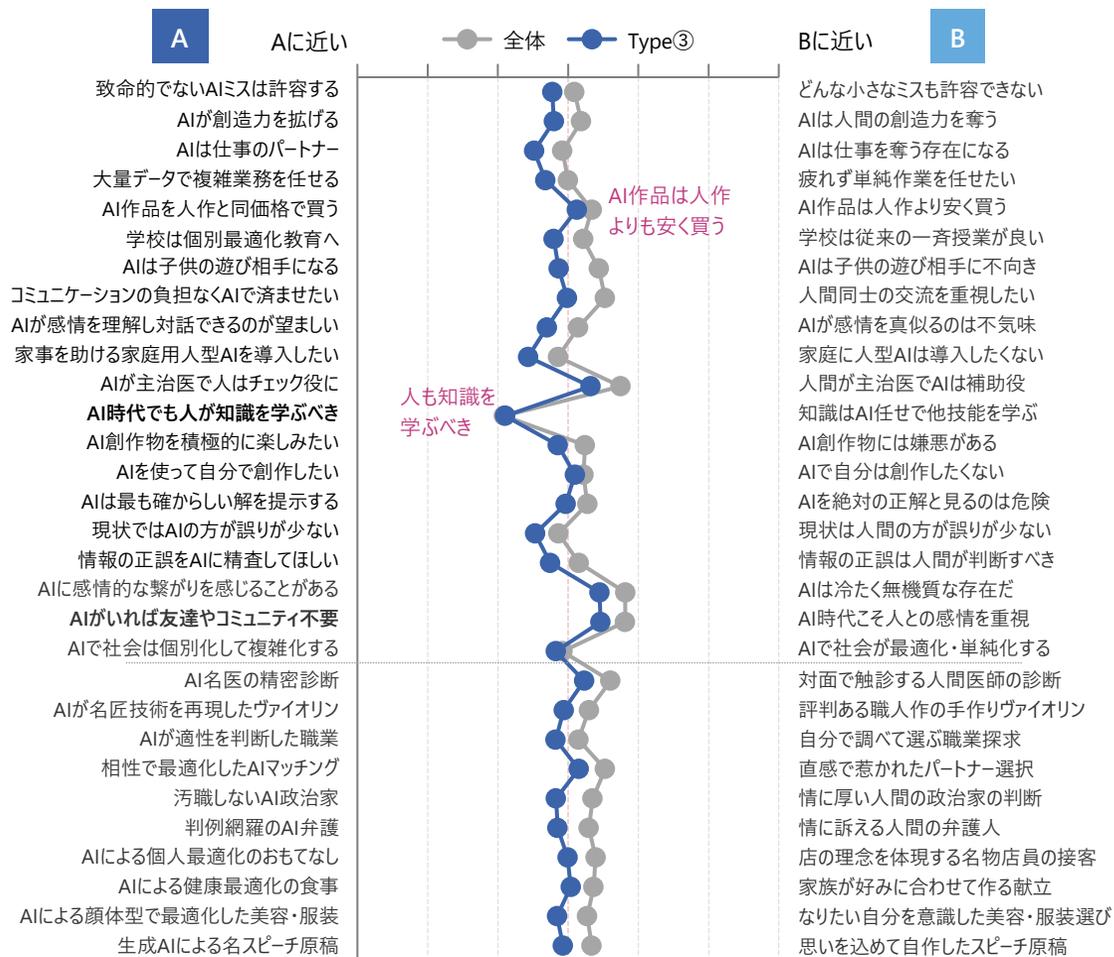
生成AI利用割合

- 仕事・学習での生成AI利用割合は低いが、趣味・娯楽では6割以上の方が生成AIを利用している。
- 機能の代替や行動や行為の代替については平均的であるが、やや高い傾向。人間よりやや生成AI優位ではあるが、AI作品への評価と人も知識を学ぶべきだという考え方に関しては平均的。



AIに対する考え方 / AI vs 人間

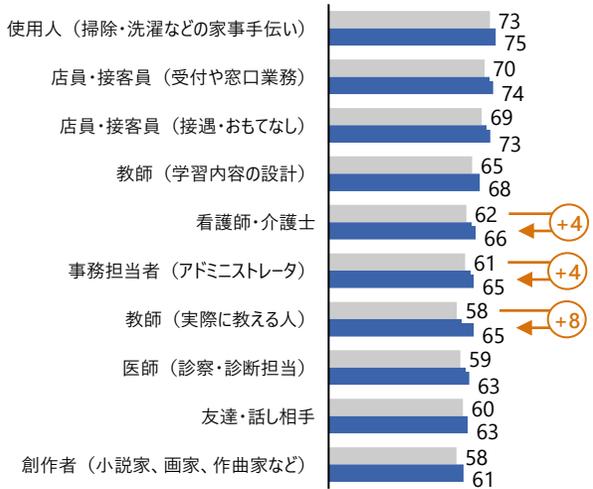
全体: N=12515 Type③: N=2703



AIによる代替の許容度 / AIの行動・行為の許容度 TOP10 [%]

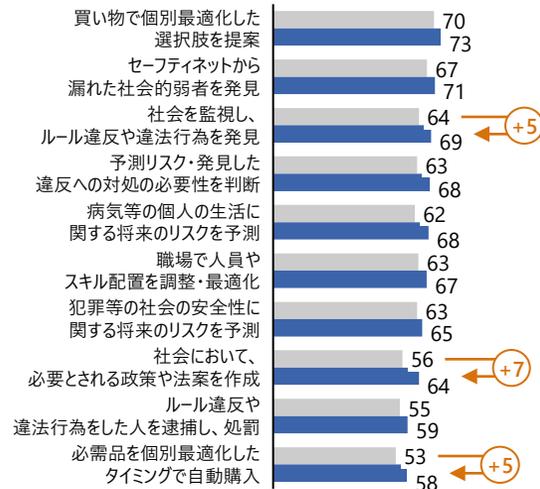
[生成AIによる代替 許容度TOP10]

※「無条件で利用したい+より高機能になる・安全性が高まるなど進化するならば利用してもよい」の合計



[生成AIの行動・行為 許容度TOP10]

※「許容できる」TOP2の合計



セグメントプロフィール | Type④ : AI不信×非利用層「人間価値重視スタイル」

特に50-60代女性が多く、米独人の出現率が高い。利用時間は全クラスタの中で最も短く、約6割がレコメンドシステム未使用。さらに、「検索の質が下がる」とネガティブイメージを持っている。

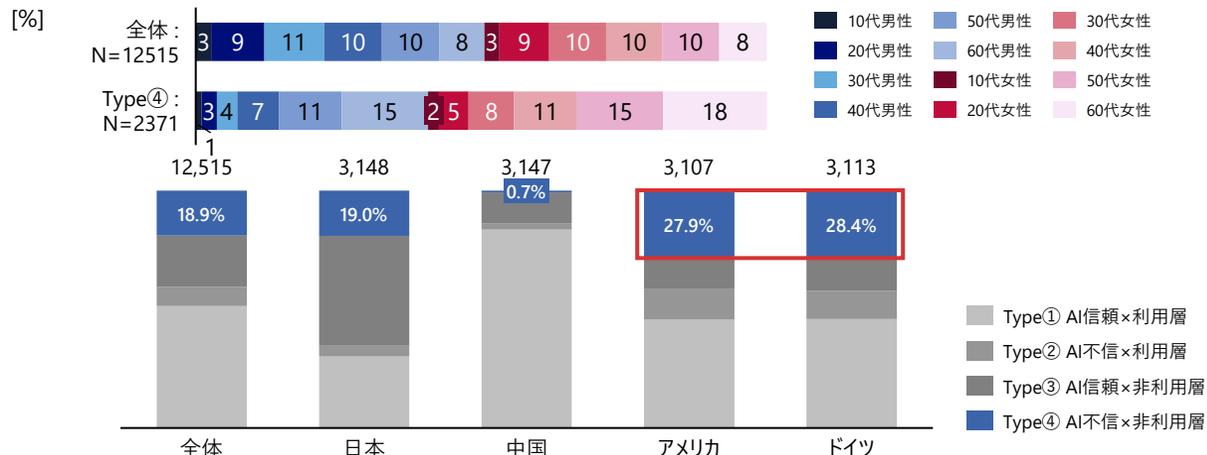
基本情報

▼セグメント基礎集計

	セグメント	全体平均
平均年齢	50.6 歳	42.7
女性比率	59.4 %	49.3
AI信頼点数	2.85 点/10	5.77
生成AIにける金額	59 円/月	1599

- 50-60代男女が多く、特に女性が多い。米独人が約7割を占め、中国はわずか1%。
- 仕事・学習において利用時間が全クラスタの中で最も短い。AIレコメンドシステムも「従ったことがない・見たことがない」人が6割弱で、レコメンドによって「検索の質が下がる」と答えた割合が高かった。

属性項目 (性年代・各国の出現率)



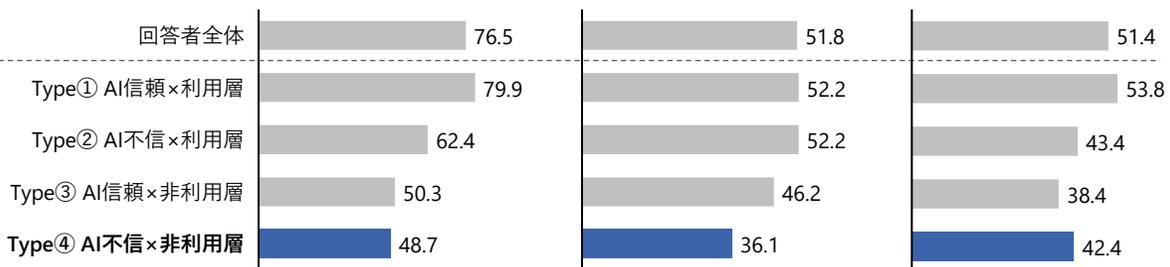
生成AIの用途別利用時間 (生成AIを利用した時間)

※就業者に限る

[仕事において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

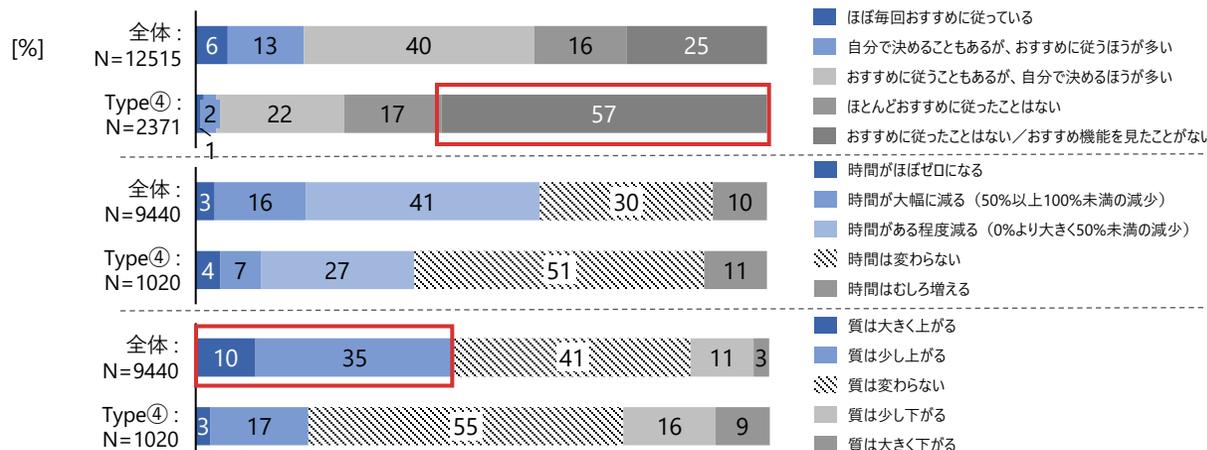
[学習において生成AIを利用した平均時間(分/日)]

[趣味・娯楽において生成AIを利用した平均時間(分/日)]



【参考】生成AI利用によって短縮されたと感じる仕事時間：39.7分/日

AIレコメンドシステム利用 (利用状況・質の変化・時間の変化)

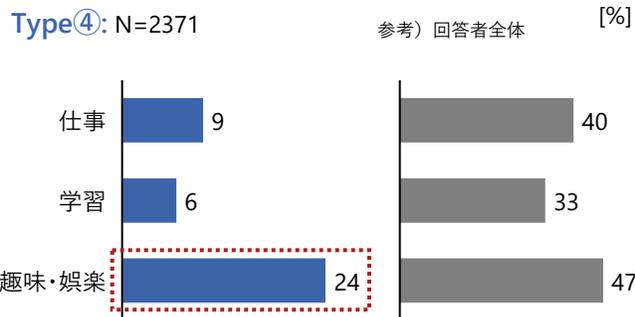


セグメントプロフィール | Type④ : AI不信×非利用層「人間価値重視スタイル」

生成AIより人間優位の考え方が強く、生成AIによる機能や行為の代替の許容度も低い。一方で、生成AIを全く利用しないわけではなく、趣味や娯楽で使う割合は平均的。

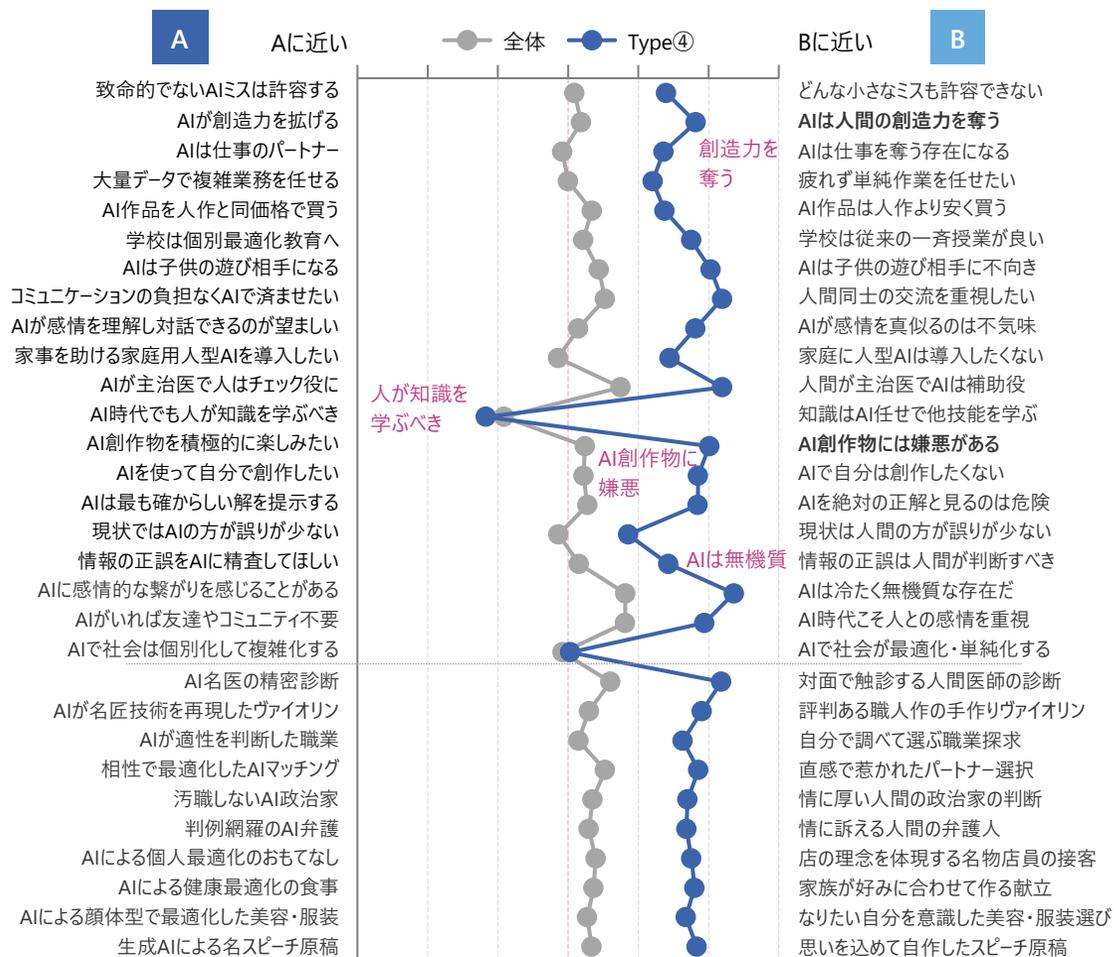
生成AI利用割合

- 仕事と学習における生成AIの利用割合は全体と比べて大幅に低いが、趣味・娯楽における生成AIの利用は平均的。
- 生成AIによる機能の代替や行動・行為の代替の許容度も全体と比較して大幅に低く、生成AIより人間優位の考え方であり、特にAI創作物への嫌悪感が高い。

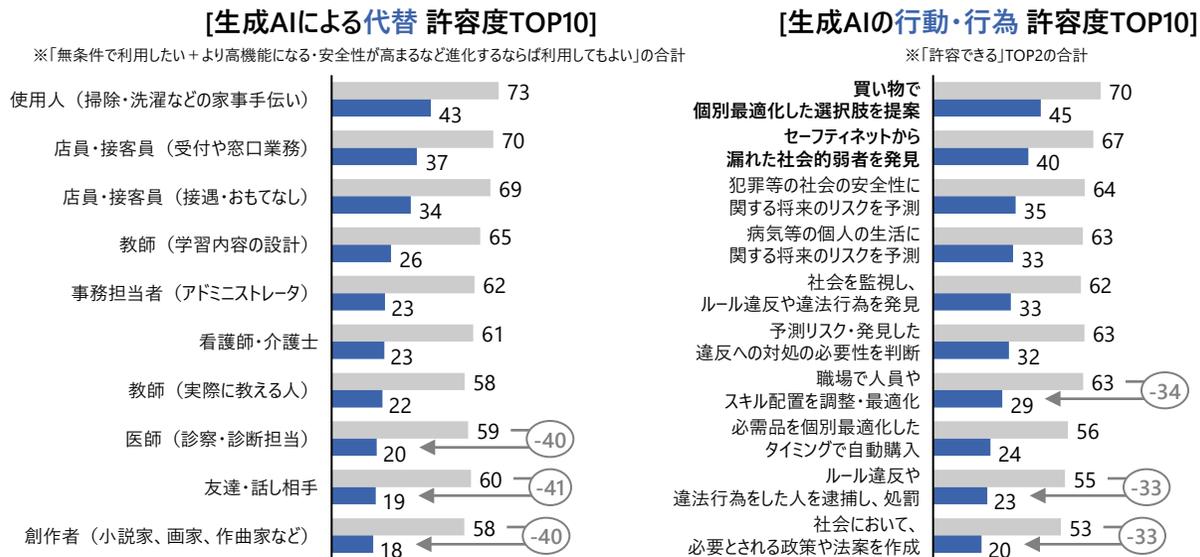


AIに対する考え方 / AI vs 人間

全体 : N=12515 Type④ : N=2371



AIによる代替の許容度 / AIの行動・行為の許容度 TOP10 [%]



各国のAI信頼・利用を規定する背景：価値観、満足度、イノベーター度

本調査では、国民性・価値観、生活満足度、イノベーター度※といった多角的な要素が、各国のAI受容性・利用度、ひいてはクラスタ構成に影響を与えていることを示唆している。

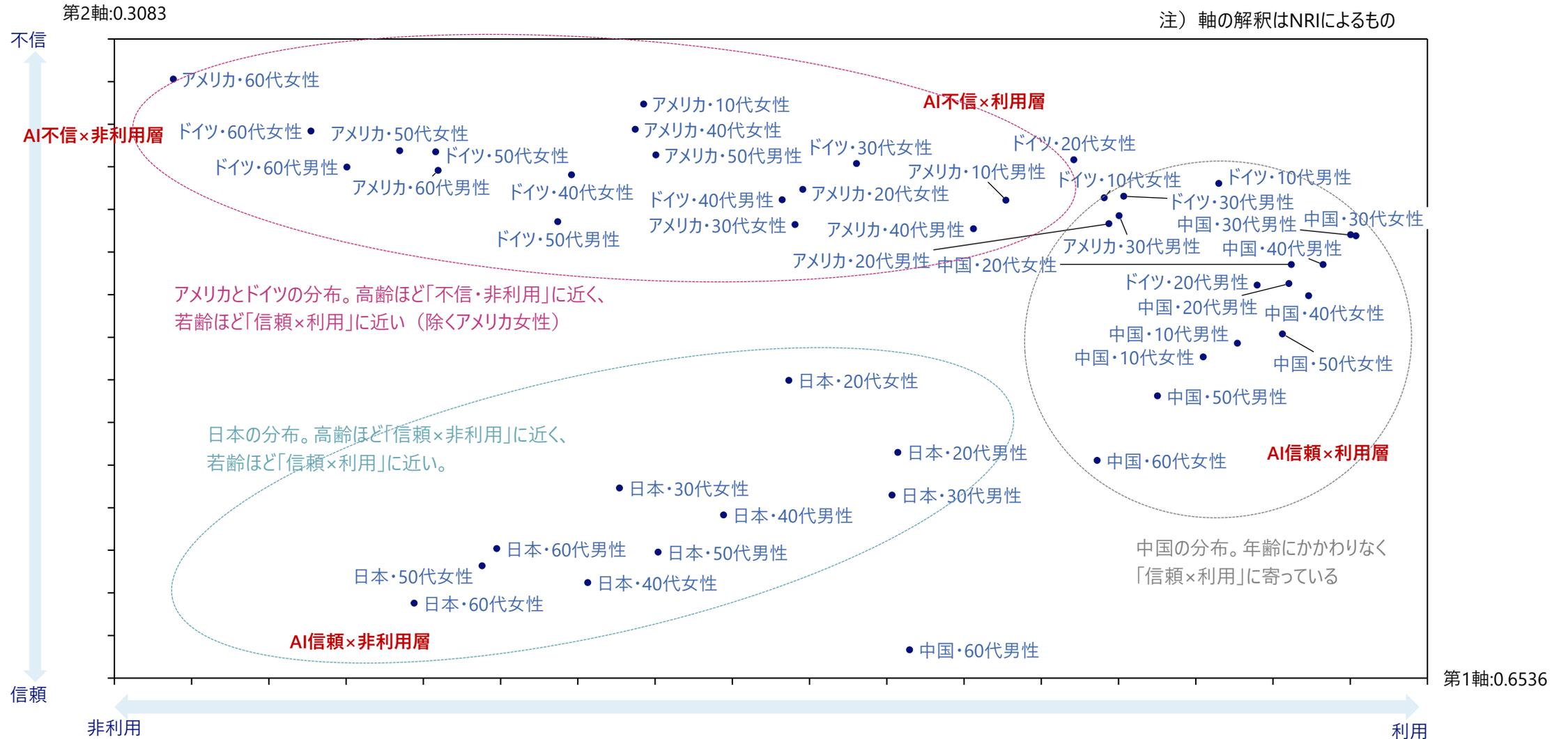
AI受容性に影響を与える要素

※イノベーター：新しいものを率先して採用する消費者

	日本	米国	中国	ドイツ
国民性・価値観	「仲間意識」「和の尊重」に肯定的な割合が高い	「個人志向」に肯定的な割合が高い	「公民意識」に肯定的な割合が高い	「自由と多様性の尊重」に肯定的な割合が高い
生活満足度	約55%が満足 (平均5.66点)	約73%が満足 (平均6.89点)	約93%が満足 (平均7.80点)	約73%が満足 (平均6.71点)
イノベーター度	約35%	約65%	約76%	約60%
クラスタ構成 ボリュームゾーン	「AI信頼×非利用層」	「AI不信層」 若年→利用 高齢→非利用	「AI信頼×利用層」	「AI不信層」 若年→利用 高齢→非利用

AI利用と信頼 | 性年代と居住国のかかわり

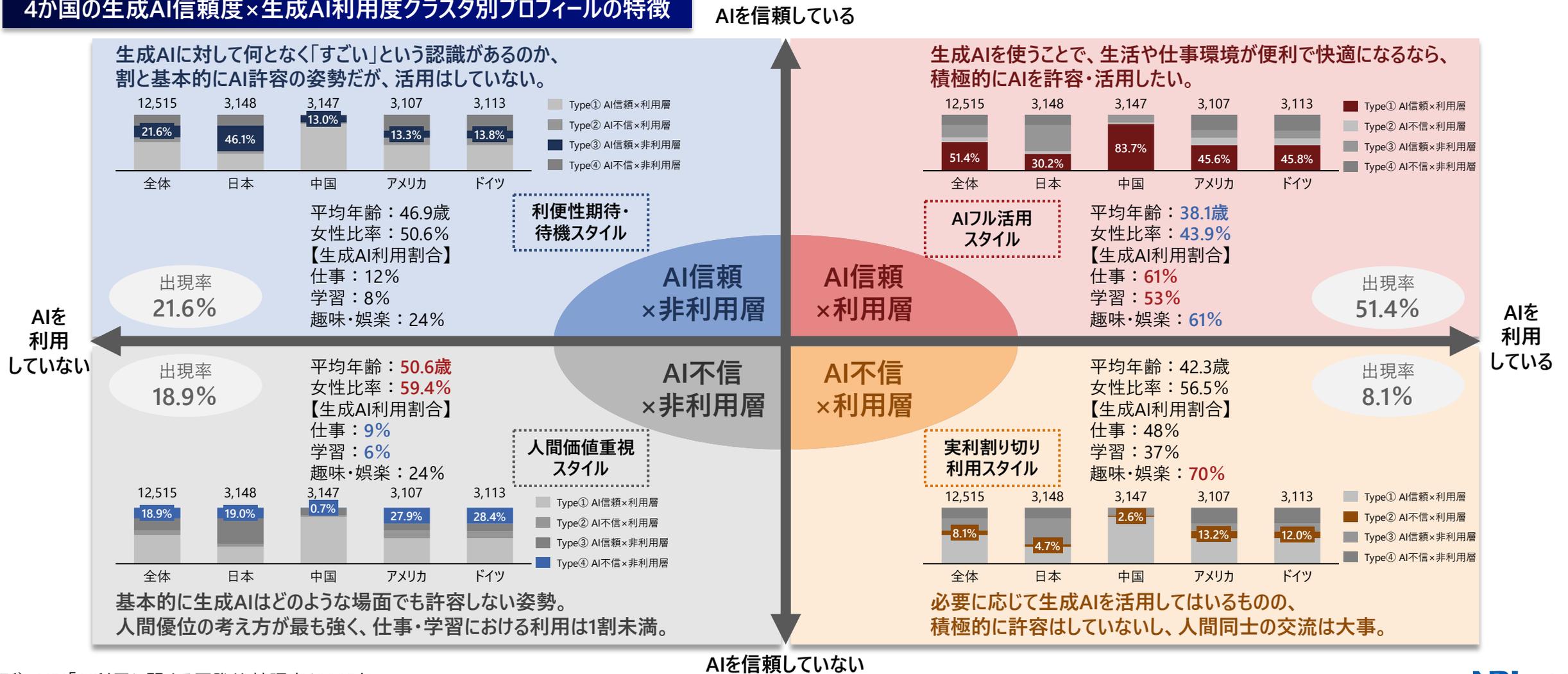
中国は年齢に関わりなく、日米独は若年で「信頼×利用」に寄っている傾向。米独の高齢者は「不信×非利用」、日本の高齢者は「信頼×非利用」に寄っており、特に女性でその傾向が強い。



生活者はAIをどう捉えているか | 4か国クラスタリング結果

日中米独の4か国の生活者をAI信頼度と利用度でクラスタリングした結果、以下の特徴が確認できた。

4か国の生成AI信頼度×生成AI利用度クラスタ別プロフィールの特徴



目次

■生活者におけるAI利用の現在地

■産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性

■生活者はAIをどう捉えているか

日本におけるAI浸透時代の未来像

■Appendix.

日本のAI浸透への道筋_「信頼×非利用層」の特性と移行の入り口

利用層と非利用層の共通点と差分から「機能便益が高い」「利用への安心感が得られる条件が揃っている」「対人摩擦が軽減できる」領域からAI代替が進む可能性が示唆される。

AI信頼層における利用層と非利用層の差分

共通点

- ①「機能・使役的役割」は許容されるが、「情緒的代替」は許容度が低く、「AIによる便益向上の評価は高い」という傾向
- ②根拠の明示や安全性、透明性といった実利的側面が信頼形成に直結する傾向

相違点

- ③利用層では、「店員・接客員」や「友人・話し相手」のような対人摩擦が生じやすい領域でAI代替が許容傾向にあること

AI信頼×非利用層が「利用」へと転じるきっかけ

①機能便益の体感

- AI活用は、家事や接客など、具体的な利用が想像できる生活シーンで許容されやすい。
- レコメンド、自動要約、記録・検索の容易化などで時間短縮・精度向上の体験が続けば、限定利用から常用化へ移行しやすい。

②利用への安心感

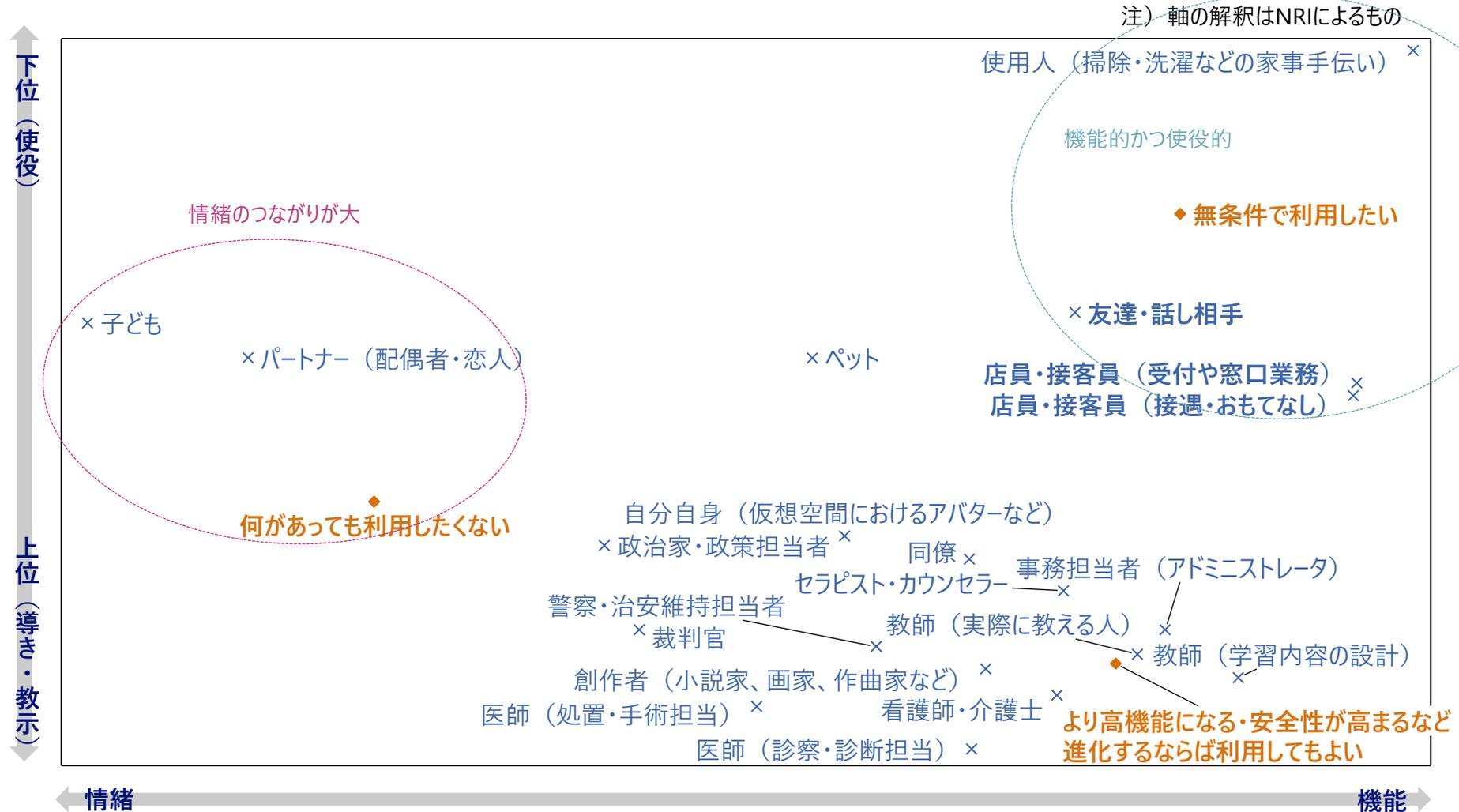
- AIに選択肢整理を任せ、最終決定と責任は人が保持する「ハイブリッド意思決定」が、利用への安心感と信頼を支える。
- AI情報のロジック説明、データ出所明示、エラー・誤判定時のセーフティネット（訂正・人間へのエスカレーション）の整備が重要。

③対人摩擦の低減

- カスハラや誹謗など精神的負荷の高い場面では、AIを介した非対面チャネルが有効で、利用のきっかけとなる。
- 無人レジ、AIレコメンド、匿名チャット相談など、対人摩擦を回避し目的達成できる選択肢が浸透する領域では、AI代替の許容度が先行する。

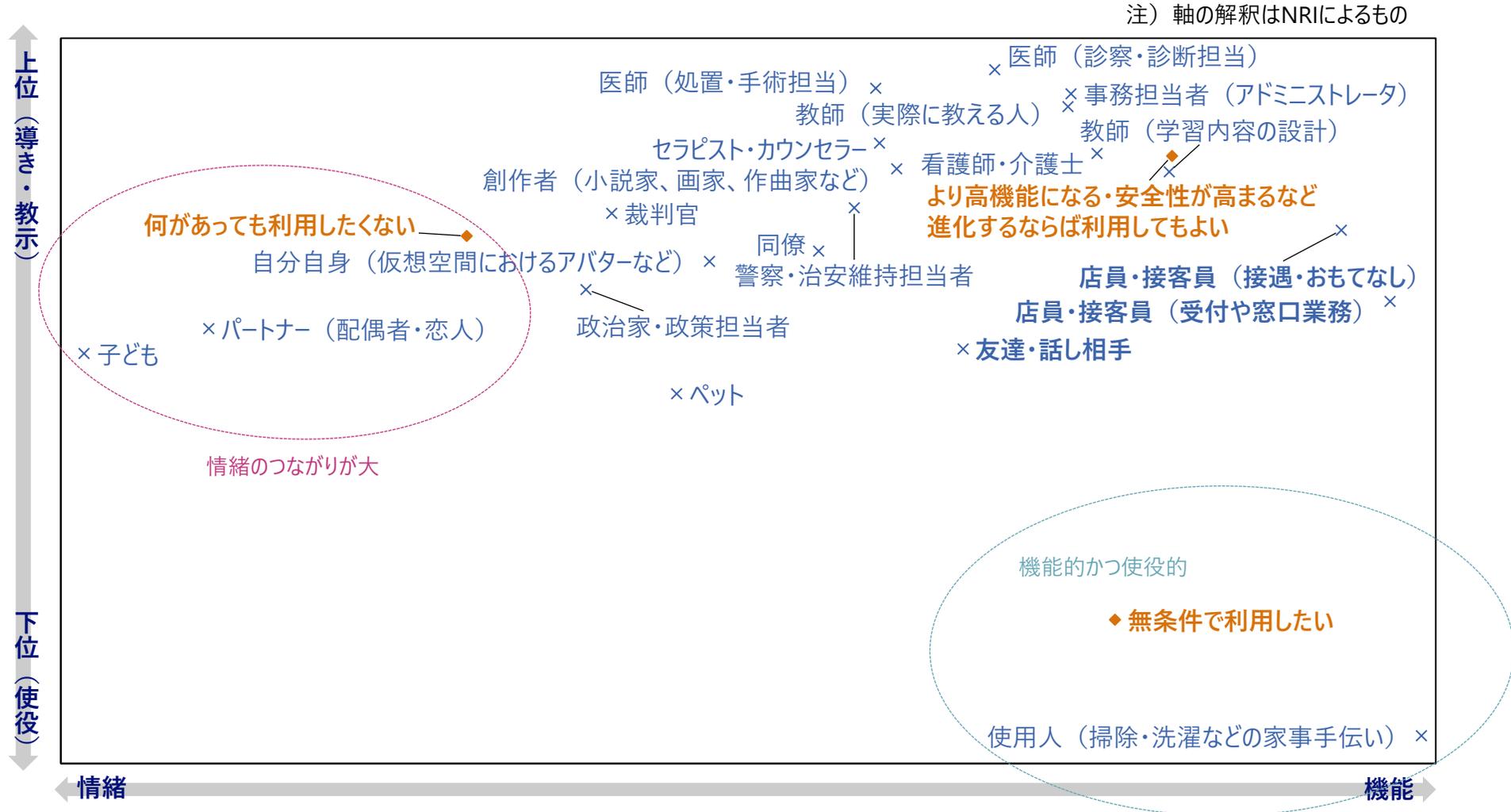
役割代替の許容構造 (AI信頼×利用層：AIフル活用スタイル)

機能・使役的役割は許容されるが、情緒的代替は許容度が低い傾向にある。一方、「友人・話し相手」など対人摩擦を避けるAI活用が浸透した領域では、受け入れられやすい。



役割代替の許容構造（AI信頼×非利用層：利便性期待・待機スタイル）

利用層と同様に機能的かつ使役的な役割では許容されるが、情緒的な関係性の代替は許容度が低い傾向にある。



AI浸透後の日本の生活者像

AI浸透後の日本は、効率化で就業価値観が変容し、対人接点は高付加価値化。AIが定型業務や認知負荷を担うことで、人は例外処理や本質的判断に集中する。

AI浸透後の日本の生活者像

	シーン	AI浸透による変化	具体的なイメージ
情緒	就業	<ul style="list-style-type: none">就業価値観の変容	日本ではAI活用による生活の効率化が先行して「便利さを重視する」価値観を押し上げ、その結果として可処分時間や心理的余裕が増し、就業や学び直しに向けるエネルギーが緩やかに増える、という順序での価値観変化が生じる。
	日常生活	<ul style="list-style-type: none">対人接点の高付加価値化	若年層に広がるパーソナルAIへの相談やAIレコメンドの利用は、友人・話し相手の機能を一部代替しつつ、より対面でのコミュニケーションに特化した深い人間関係を促進する「二層構造」を形成する。
機能	就業	<ul style="list-style-type: none">一次対応や負荷の高い業務のAI代替認知オフロードの進行	理不尽なクレームや定型的な問い合わせはAIチャネルが一次対応することで、従業員を精神的負荷から保護する。これにより、人間はAIでは代替できない、より複雑で高度な問題解決や、深い共感が求められる対話に集中できるようになり、対人接点全体の付加価値が高まる。
	日常生活	<ul style="list-style-type: none">日常タスクの「AI前提化」	AIの限定利用から常用化へ移行すると、日常タスクの設計が「AI前提」へと再編される。予約、購入、移動、行政手続きなどの定型・反復工程では、AIが候補提示と最適化を担い、人は例外処理と価値判断に集中する。

AI信頼度と利用度で生活者を類型化し、AIの認識を分析。日本で多数の「AI信頼×非利用層」がAI利用へ移行するきっかけと、AI浸透後の日本社会の情緒・機能両面での変化を展望。

【3章. 生活者のAIに対する「捉え方」の類型化】

AI信頼度×利用度で4つのクラスタを特定

AI信頼×利用層(51.4%)：中国で突出（8割超）。若年男性中心。AIを積極的に活用し、信頼。

AI信頼×非利用層(21.6%)：日本で多数（約半数）。中高年男女中心。AIに期待するが利用は消極的。

AI不信×利用層(8.1%)：米独で多い。若年～中年女性中心。AIは利用するが信頼は低い。

AI不信×非利用層(18.9%)：米独で多い。高齢女性中心。AIを不信視し、利用も消極的。

背景要因：居住国・文化（中国の技術実用主義、欧米の人格・プライバシー重視、日本の実利・安全重視）がAI信頼形成に影響。

【4章. 日本におけるAI浸透時代の未来像】

日本の「AI信頼×非利用層」が利用へ移行するきっかけ

機能便益の体感：時間短縮、精度向上（レコメンド、自動要約）の体験。

利用への安心感：AIと人の「ハイブリッド意思決定」が信頼の基盤。透明性と安全対策が不可欠。

対人摩擦の低減：精神的負荷が高い場面での非対面チャネル活用。

AI浸透後の日本の生活者像

情緒面:

就業価値観の変容: AIによる効率化で可処分時間・心理的余裕が増え、就業・学び直し意欲が向上。

対人接点の高付加価値化: AIが簡易な対話を代替し、人は深い人間関係に集中。

機能面:

日常タスクの「AI前提化」: AIが定型業務を担い、人は例外処理と価値判断に集中。

認知オフロードの進行: 情報収集・整理をAIに委ね、判断負荷を軽減。

目次

■生活者におけるAI利用の現在地

■産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性

■生活者はAIをどう捉えているか

■日本におけるAI浸透時代の未来像

Appendix.

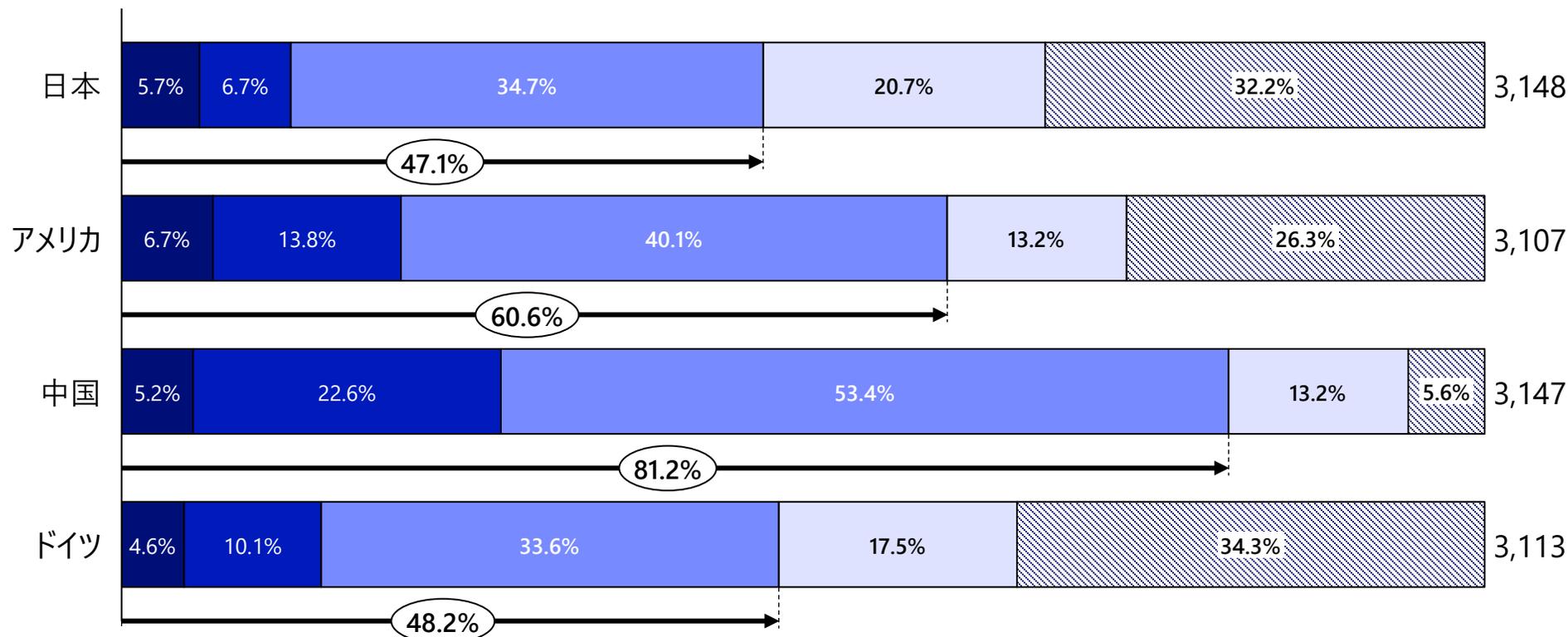
生成AIのレコメンドシステムの利用

生成AIのおすすめ機能を少しでも利用する割合は 中国が8割以上、アメリカが6割、日本とドイツが5割弱であった。

回答者：生成AI利用者

あなたはAIレコメンドシステム（例：Netflix、YouTube、楽天、Amazonなどのおすすめ機能）がおすすめる商品や動画・音楽等を購入／視聴することがありますか。最もあてはまるものをお知らせください。

- ほぼ毎回おすすめに従っている
- 自分で決めることもあるが、おすすめに従うほうが多い
- おすすめに従うこともあるが、自分で決めるほうが多い
- おすすめに従ったことはない／おすすめ機能を見たことがない
- ほとんどおすすめに従ったことはない

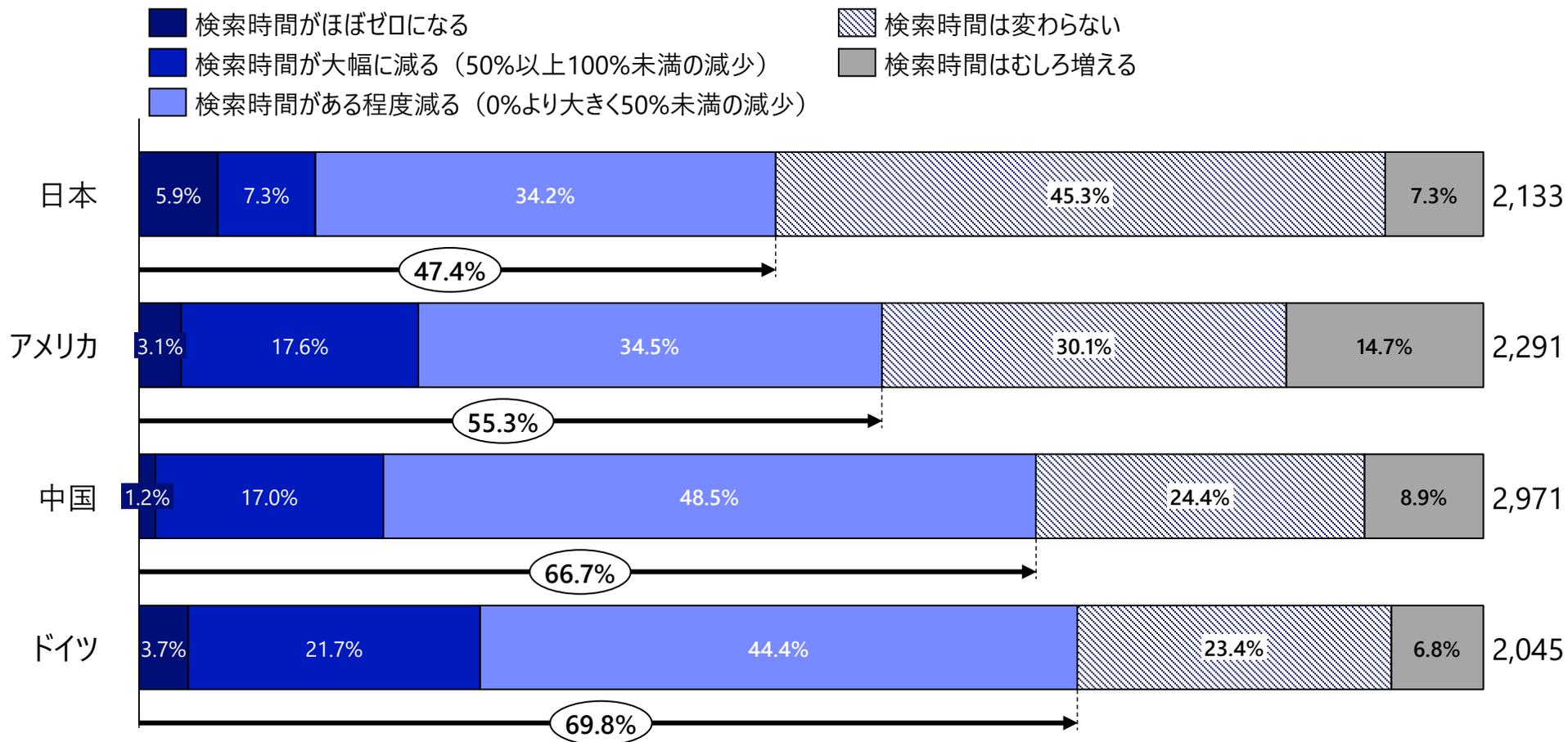


生成AIのレコメンドシステムによる検索時間の増減

AIのおすすめ機能で検索時間が少しでも「減る」と答えた割合は、中独が7割弱、アメリカが5割強、日本が5割弱。

回答者：生成AI
レコメンドシステム利用者

あなたはAIレコメンドシステムによって、それが無い時と比べて検索時間は変化していると思いますか。最もあてはまるものをお知らせください。

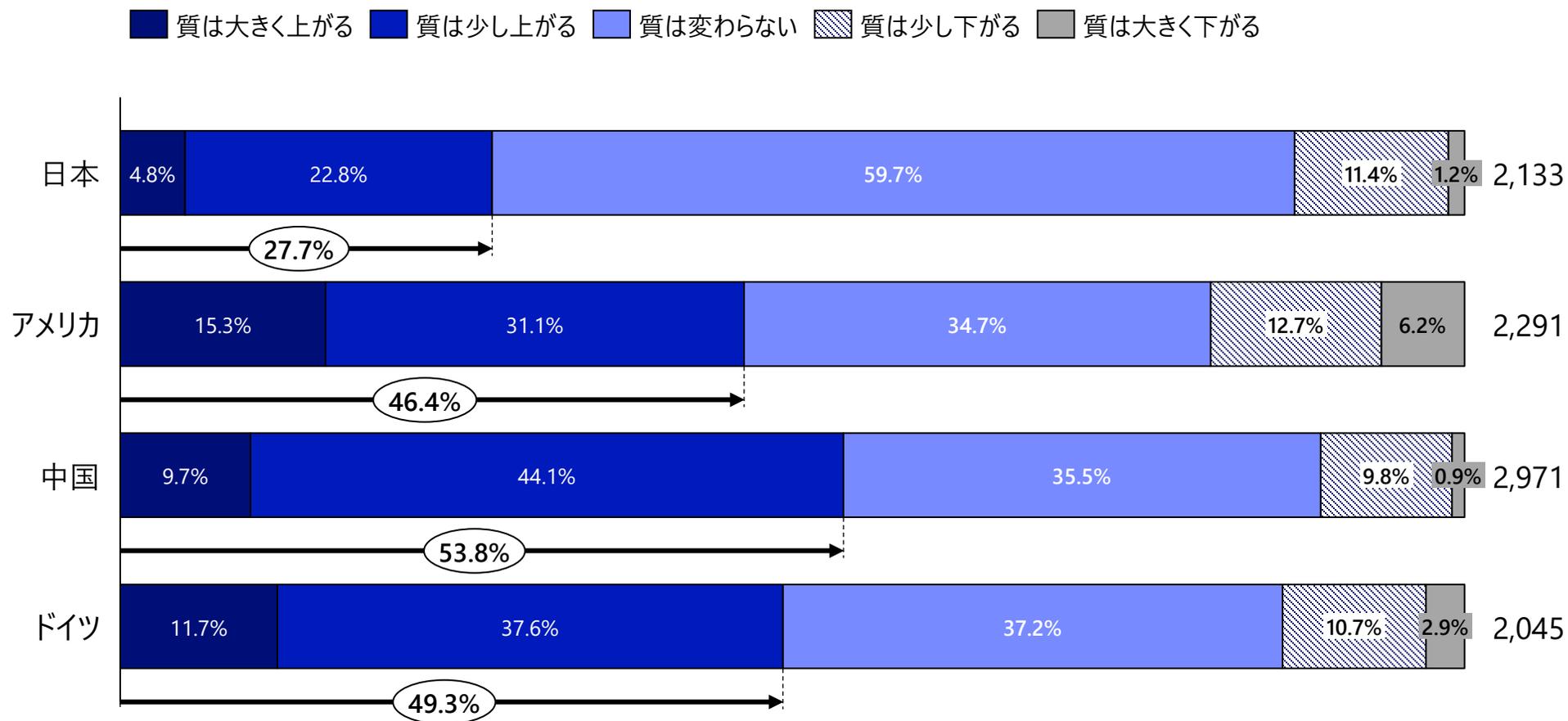


生成AIのレコメンドシステムによる検索結果の質

AIのおすすめ機能で検索結果の質が少しでも「上がる」と答えた割合は、中国が5割強、米独が5割弱、日本が3割弱であった。

回答者：生成AI
レコメンドシステム利用者

あなたはAIレコメンドシステムによって、それが無い時と比べて検索結果の質は変化していると思いますか。最もあてはまるものをお知らせください。

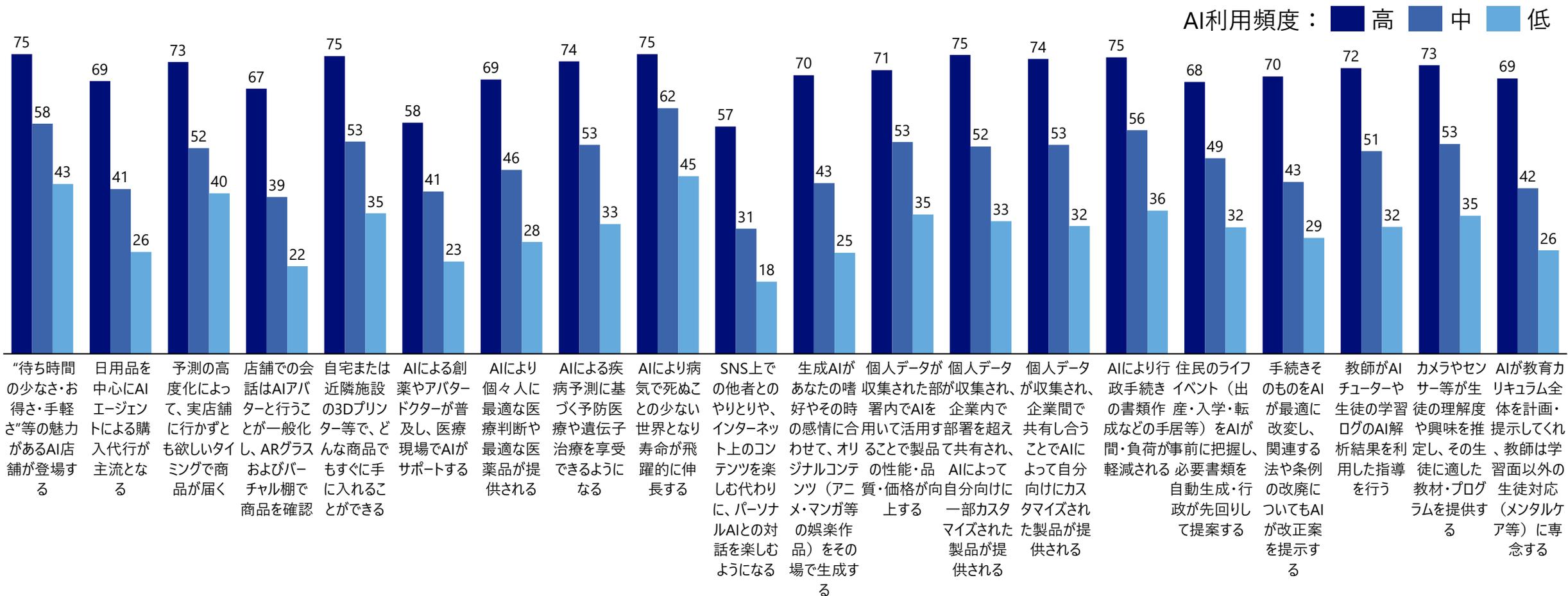


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | アメリカ

AI利用頻度が高い人ほど各産業におけるAI化への受容性が高くなる。 日本よりもAI頻度別の意識の差が大きい。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。（好ましいと思う計）

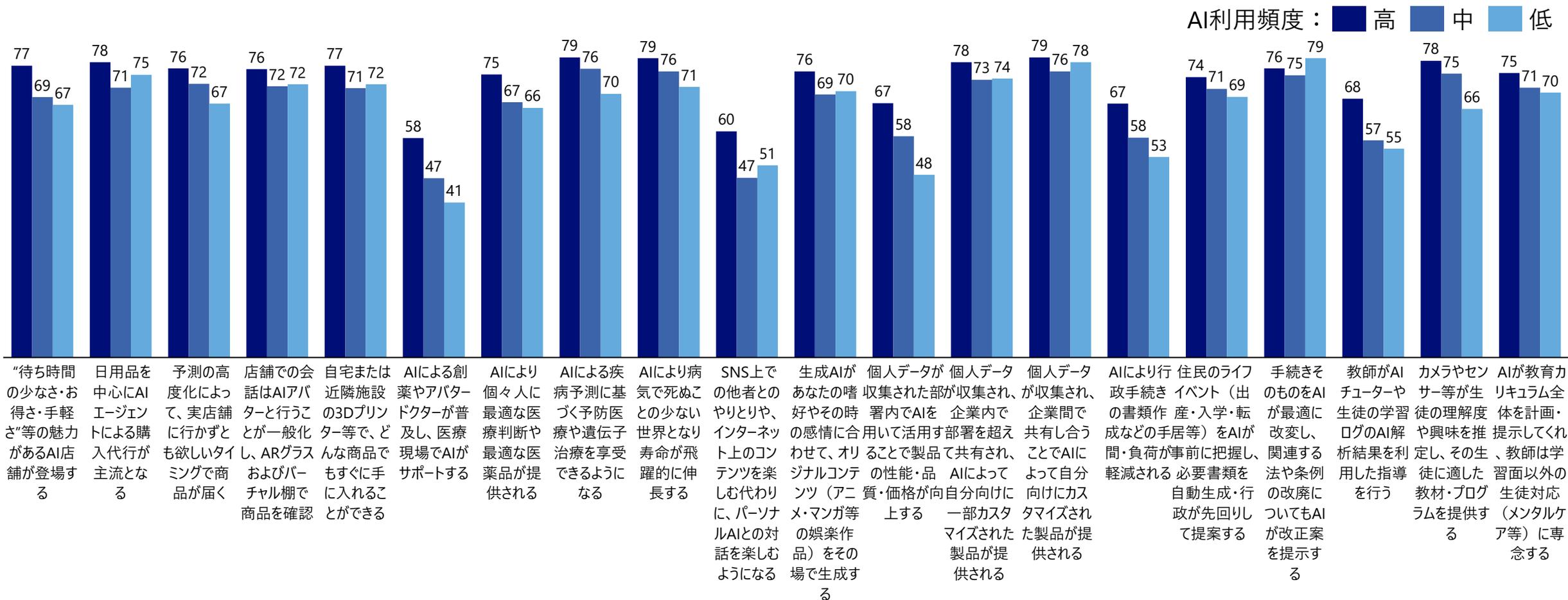


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | 中国

AI利用頻度が高い人ほど各産業におけるAI化への受容性が高くなる。 ただし、日本ほど差は小さくなく、低の人でも受容性はかなり高い。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。（好ましいと思う計）

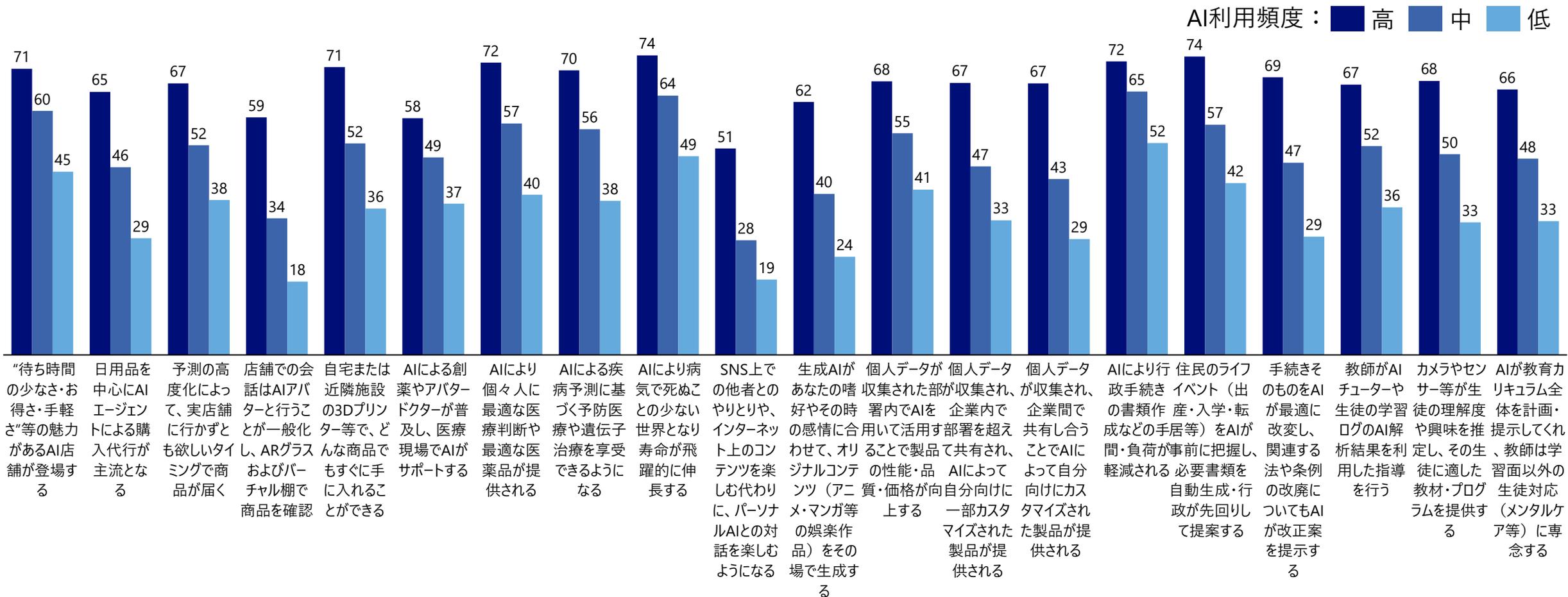


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | ドイツ

AI利用頻度が高い人ほど各産業におけるAI化への受容性が高くなる。 日本よりもAI頻度別の意識の差が大きい。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。（好ましいと思う計）

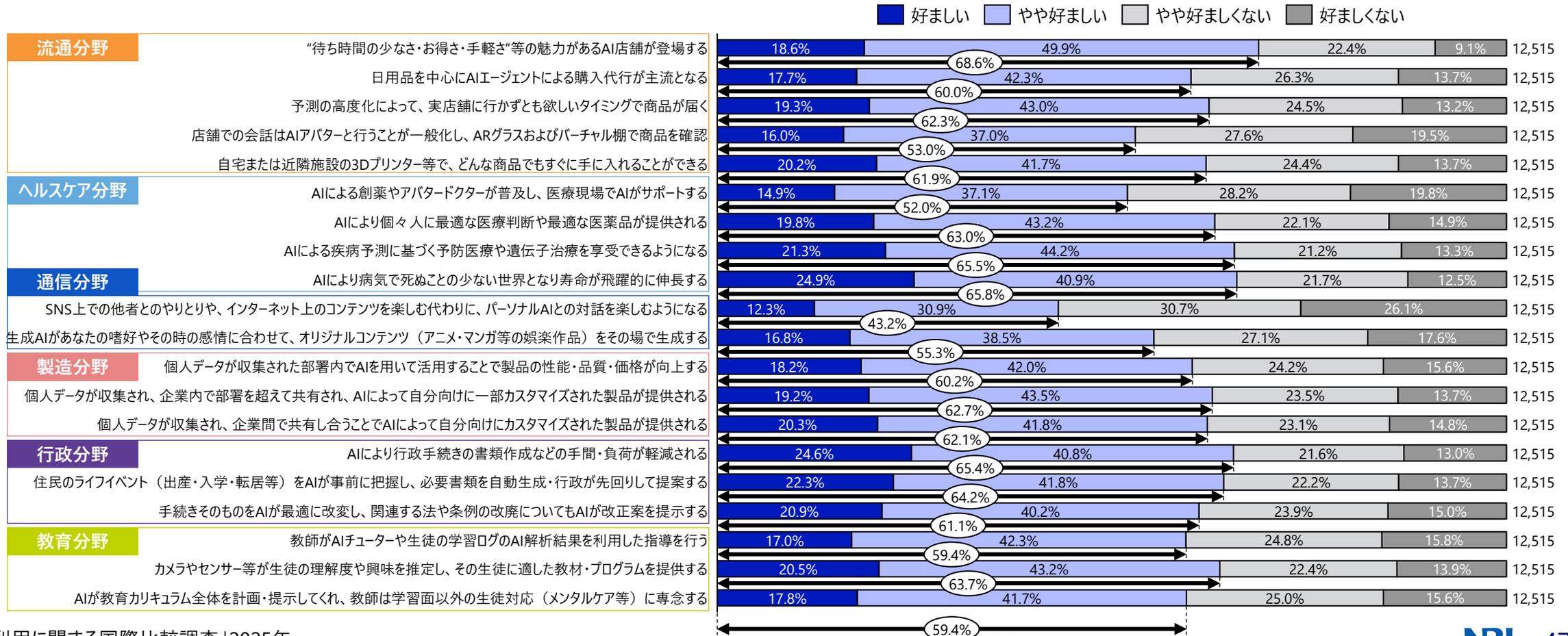


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | 4か国全体

全体的に6割弱から7割弱が「(やや)好ましい」と回答しており、AI技術の進展を許容。一方で、「アバタードクター」や「対話や会話」の項目は相対的に低い水準。

回答者：全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

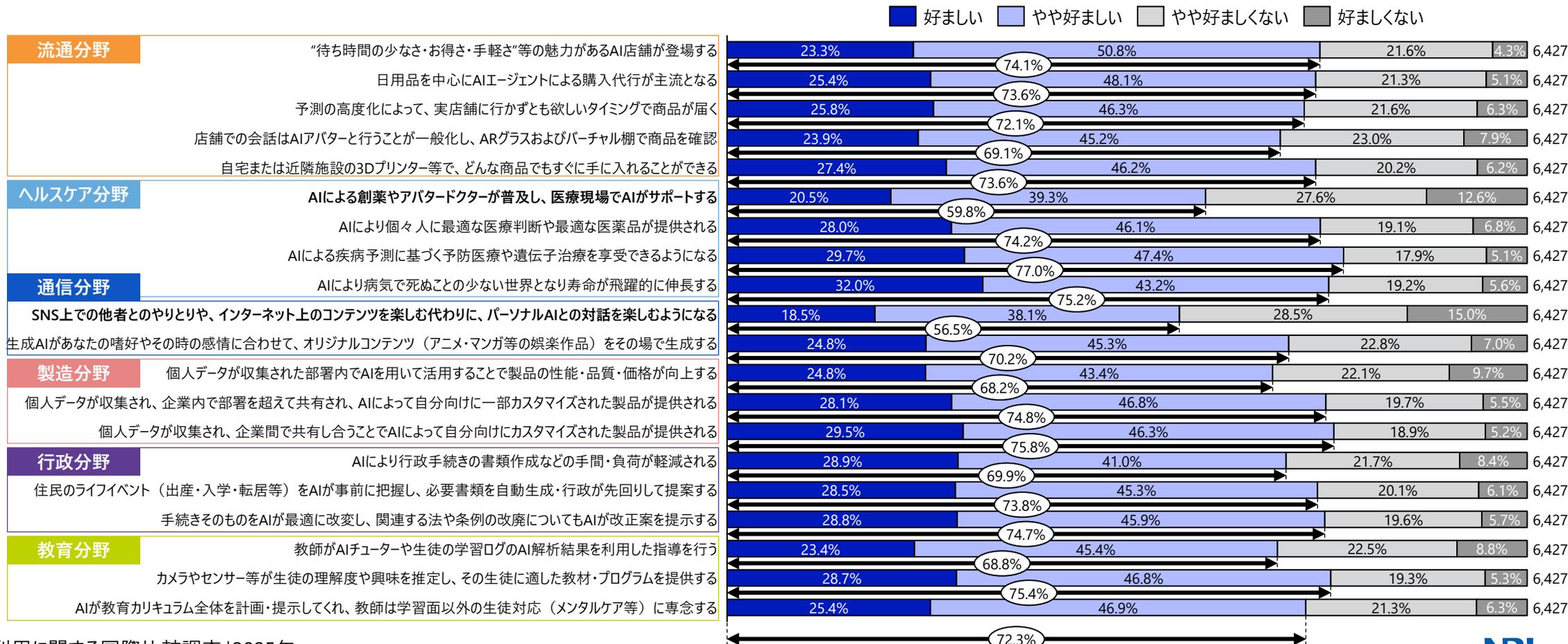


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | Type① AI信頼×利用層

「AI信頼×利用層」では、ほとんどの項目で「(やや)好ましい」と答えた割合が7割弱から8割弱を占めるのに対し、「アバタードクターとパーソナルAIとの対話」では6割に満たなかった。

回答者：Type①全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

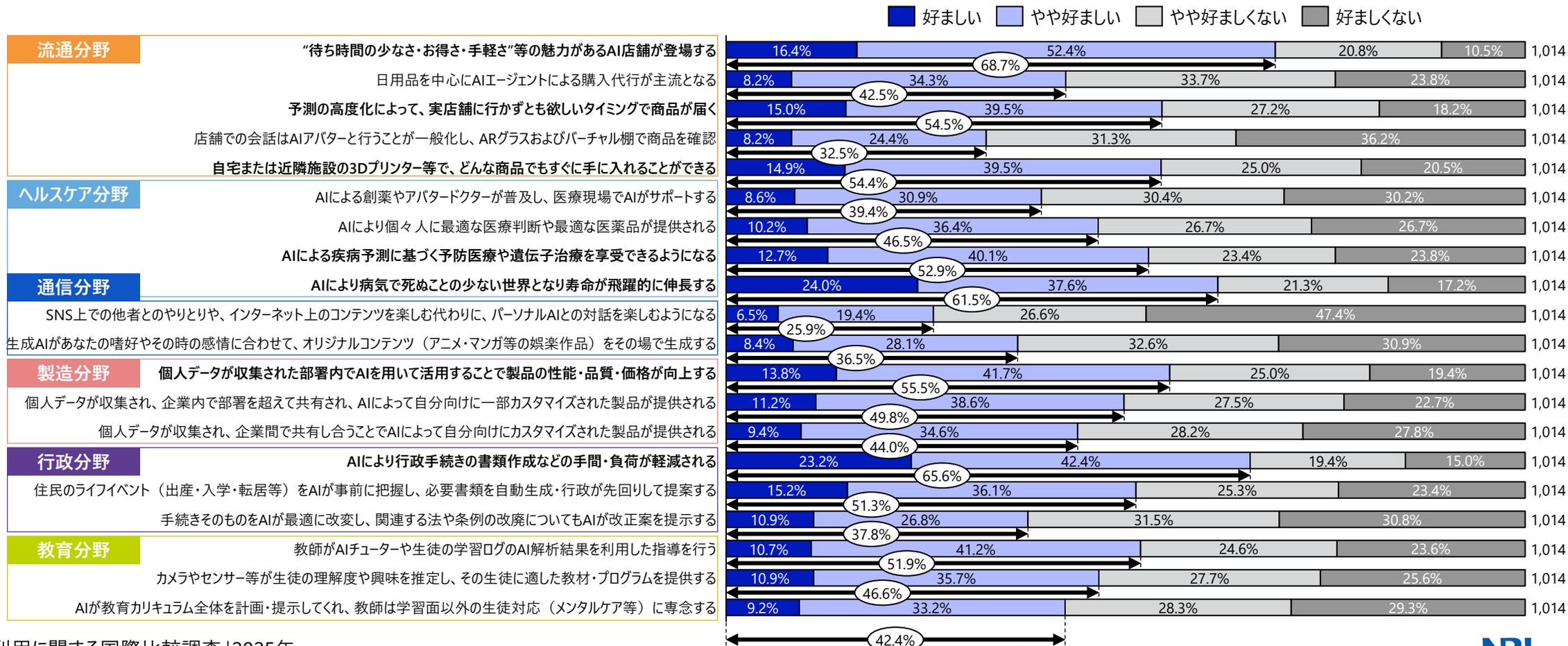


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | Type② AI不信×利用層

全体的にやや「好ましくない」よりの回答だが、「利便性が向上する」項目や「予防医療等へのAI活用により病気で死ななくなる」といった項目は半数以上が「(やや)好ましい」と回答した。

回答者：Type②全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

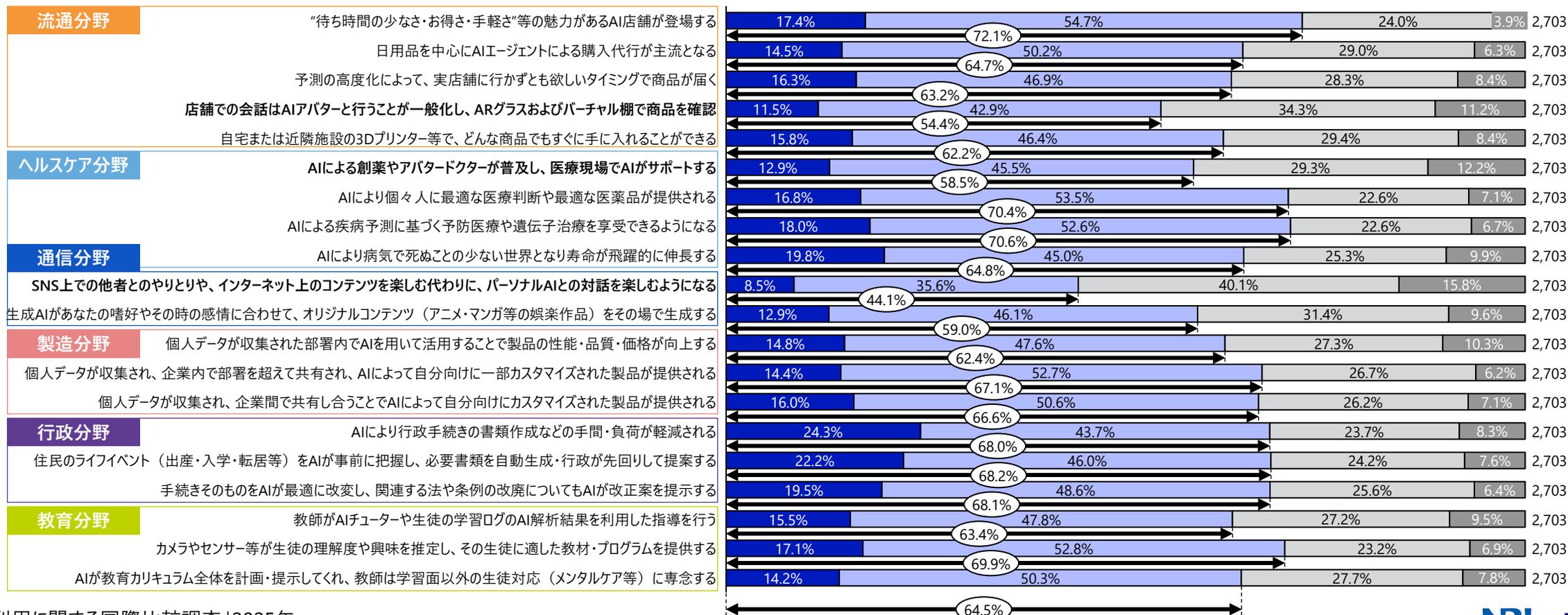


産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | Type③ AI信頼×非利用層

ほぼすべての項目で6割弱から7割強が「(やや)好ましい」と回答している。一方で、「会話や対話」のAI代替については相対的に「(やや)好ましい」と回答した割合が低い。

回答者：Type③全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。



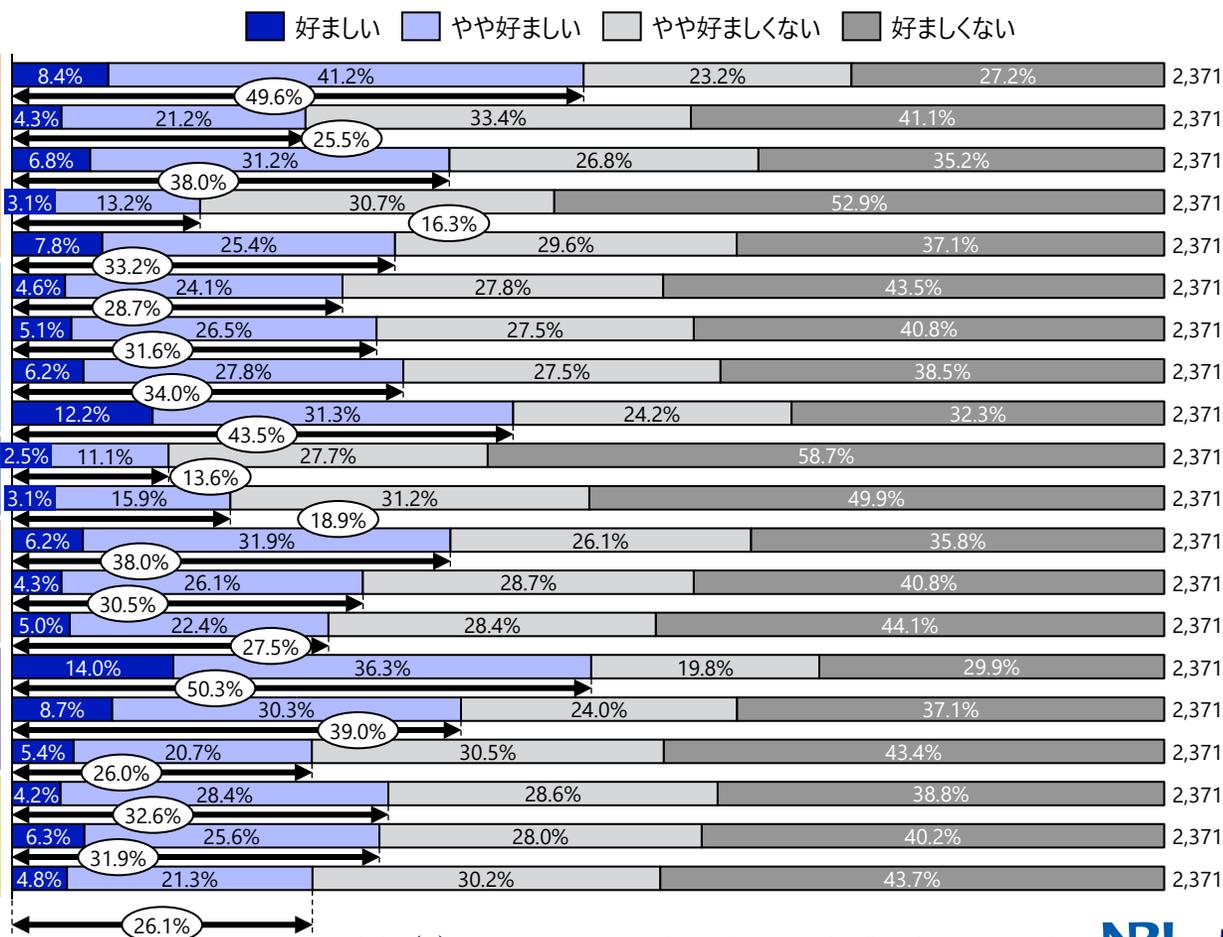
産業のAIトランスフォーメーションに対する生活者受容性 | Type④ AI不信×非利用層

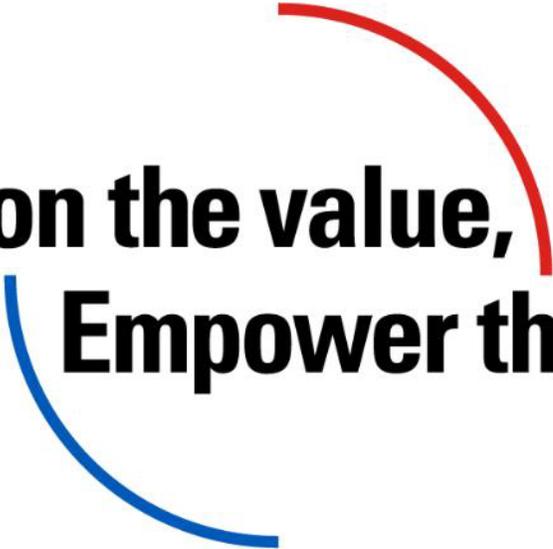
「(やや)好ましい」と答えた割合は約2割から3割強。特に「対話や会話」に関する項目は10%代と低かった一方で、「利便性の向上、病気で死ぬことが減る」項目は4割強から半数が許容。

回答者：Type④全員

あなたは以下の分野ごとに、AI技術の進展により実現される内容について好ましいと思いますか。最もあてはまる気持ちをお知らせください。

流通分野	“待ち時間の少なさ・お得さ・手軽さ”等の魅力があるAI店舗が登場する 日用品を中心にAIエージェントによる購入代行が主流となる 予測の高度化によって、実店舗に行かずとも欲しいタイミングで商品が届く 店舗での会話はAIアバターと行うことが一般化し、ARグラスおよびバーチャル棚で商品を確認 自宅または近隣施設の3Dプリンター等で、どんな商品でもすぐに手に入れることができる
ヘルスケア分野	AIによる創薬やアバタードクターが普及し、医療現場でAIがサポートする AIにより個々人に最適な医療判断や最適な医薬品が提供される AIによる疾病予測に基づく予防医療や遺伝子治療を享受できるようになる
通信分野	AIにより病気で死ぬことのない世界となり寿命が飛躍的に伸長する SNS上での他者とのやりとりや、インターネット上のコンテンツを楽しむ代わりに、パーソナルAIとの対話を楽しむようになる 生成AIがあなたの嗜好やその時の感情に合わせて、オリジナルコンテンツ（アニメ・マンガ等の娯楽作品）をその場で生成する
製造分野	個人データが収集された部署内でAIを用いて活用することで製品の性能・品質・価格が向上する 個人データが収集され、企業内で部署を超えて共有され、AIによって自分向けに一部カスタマイズされた製品が提供される 個人データが収集され、企業間で共有し合うことでAIによって自分向けにカスタマイズされた製品が提供される
行政分野	AIにより行政手続きの書類作成などの手間・負荷が軽減される 住民のライフイベント（出産・入学・転居等）をAIが事前に把握し、必要書類を自動生成・行政が先回りして提案する 手続きそのものをAIが最適に改変し、関連する法や条例の改廃についてもAIが改正案を提示する
教育分野	教師がAIチューターや生徒の学習ログのAI解析結果を利用した指導を行う カメラやセンサー等が生徒の理解度や興味を推定し、その生徒に適した教材・プログラムを提供する AIが教育カリキュラム全体を計画・提示してくれ、教師は学習面以外の生徒対応（メンタルケア等）に専念する





**Envision the value,
Empower the change**